

SHOWA UNIVERSITY NEWS

12

DEC. JAN.
2023-2024

1

昭和大学新聞
通巻 第617号 (隔月発行)

2024年 年頭のご挨拶
創立95周年記念式典・記念会を挙行





学校法人昭和大学 理事長

小口 勝司

二〇二四年 年頭のご挨拶



昭和大学 学長

久光 正

新年おめでとうございます。

本年が明るく希望に満ちた年であることを願っています。

昨年、創立95周年式典・記念会を執り行い、100周年に向けて職員一同決起しました。記念事業として、旗の台、鷺沼、富士吉田各キャンパスの整備、歯科病院 旗の台移転、藤が丘再整備、保健医療学部 新学科等設置・再編、横浜キャンパス看護専門学校設置の7つの整備事業に加え、記念事業募金を策定しました。

先達が切り拓き脈々と受け継いだ歴史と伝統を誇りに、一層の発展と社会貢献の使命を胸に、未来につなげる各事業を遂行して参ります。

皆様には、今日までのご芳情とご支援に感謝致しますとともに、さらなるご理解ご協力をお願い申し上げます。

本年がより佳き年でありますよう祈念し、年頭のご挨拶といたします。

明けましておめでとうございます。

昭和大学は昨年、創立95周年を迎えました。令和6年からは、より広い分野で、より高い目標を達成すべく心一つにして多くの皆様と諸事業を推進する所存です。皆様のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

昨年、教育分野では医学部の新々カリキュラムが完成しました。卒業時、直ちに臨床に従事できるようにカリキュラム構築を根本から改めました。研究分野では新たに2研究所を設立し、あわせて8研究所が学部、研究科を超えて多分野の研究推進に力を発揮できるようになりました。令和6年4月にはさらに2研究所を設立します。

本年は「辰年」です。天に昇る龍が如く、昭和大学にとっても飛躍の年であります。

皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、年頭のご挨拶といたします。

静岡県富士宮市佐折
撮影者：稲村武思さん(薬学部4年)



「SHOWA UNIVERSITY NEWS」2025年新年号 表紙写真の募集のお知らせ 総務課大学広報係

「SHOWA UNIVERSITY NEWS」は、来年も新年号の表紙を飾る写真を募集します。皆さまからのご応募をお待ちしております。

【条件】

- ◇デジタルカメラまたはスマートフォン搭載カメラで撮影されたデジタル画像(カラー・縮小していないもの)
- ◇ファイル形式：JPGまたはPNG
- ◇画素数：短辺2,000px、長辺3,000px以上のもの
- ◇風景写真(人物・絵画はNG)
- ◇自作未発表のもの

【備考】

- ◇掲載時に誌面に合わせて写真をトリミング処理します
- ◇撮影後の写真について、合成等の過度な加工は選外になる場合がありますのでご注意ください

【募集時期・お問い合わせ】

募集時期など詳細については、本誌6～7月号、8～9月号にてご案内いたします。

学校法人昭和大学
総務部 総務課 大学広報係
メール：press@ofc.showa-u.ac.jp

「日の出とともに出港する漁船」

足摺岬
撮影者：嶋崎聖二さん(同窓 歯学部5年生)



2 Greetings
年頭のご挨拶
小口 勝司 理事長 久光 正 学長

4 Special Feature
創立95周年記念式典・記念会を挙行

8 Press Release
細胞周期阻害剤の免疫活性化メカニズムを確認
乳がん治療の新たな可能性を提示
パーキンソン病の原因タンパクによる
細胞傷害機序の一端を解明
日本のセルフケア推進を目指して
「昭和大学ストレスマネジメント研究所」開設
有効な治療薬が存在しない急性腎障害の
治療・予防方法を発明し特許取得

12 News & Topics
秋期公開講座 富士吉田でウィンターパーティ開催
イルミネーション点灯式
医療人教育演習(大学院プレFD)
認定看護管理者教育課程修了式 白衣授与式 ほか

22 Student Life
初年次体験実習報告
「“リアル”を体験し 私が得た学び」

24 Database
令和5年度科学研究費
助成事業採択課題一覧
保健医療学部 富士吉田教育部
研究所・法人 2022年6月以降採択者
入学試験結果
総合型選抜・学校推薦型選抜・卒業生推薦・編入学
医学部附属看護専門学校
大学院保健医療学研究所
永年勤続者表彰

28 Meeting Report (学内会議報告)

30 Information

創立95周年記念式典・記念会 創立100周年へ 決意を新たに

「新しい時代に向けた 新しい大学を創る」

11月15日、上條記念館にて創立95周年記念式典・記念会を執り行い、本学職員をはじめ法人・病院顧問、名誉教授等、約580名が出席した。

式典会場となった上條ホールでは、緞帳披露、昭和大学管弦楽団による演奏、小口勝司理事長の式辞、久光正学長の挨拶の後、小口理事長が「創立95周年からつなげる創立100周年に向けて」と題した記念講演を行った。

小口理事長は「創立90周年に、創立100周年に向けてどのような事業を進めるべきかとの検討があり、創立95周年の際にそれを明確にしようと検討を進め、2040年までの中長期計画を立てた。現在の日本においては少子高齢化の問題があるが、次の時代を先読みし、さらに質の高い教育と医療を提供する必要がある。創立100周年は始まりであり、新しい時代に向けた新しい大学を創っていく。建学の精神を基に更に昭和大学を発展させていきたい」と述べた。

講演後、上條メモリアル合唱団と昭和大学グリークラブにより「いざ起て戦人よ」「大地讃頌」が合唱され、出席者全員による校歌斉唱の後、閉式となった。

その後、会場を地下1階の富士桜に移し、創立95周年記念会が開催された。上條由美副理事長、中村明弘財務担当理事からの挨拶の後、細山田明義名誉学長による乾杯が行われた。

祝宴では昭和大学Medical All Stars Jazz Orchestraによる演奏、上條メモリアル合唱団による「Believe」「昭和大学応援歌」の合唱、昭和大学応援団による演舞が披露された。

最後に小川良雄創立95・100周年記念準備委員会委員長より挨拶の後、無事盛会裏に終了した。出席された多くの方々が、創立からこれまでの95年の歩みに想いを馳せ、思い出を振り返り、楽しく過ごされている姿が各所で見られた。

昭和大学は創立100周年に向け、全職員一丸となって前進していく。





昭和大学 創立95周年記念会

昭和大学創立95周年記念式典・記念会を終えて

この度、昭和大学創立95周年記念式典・記念会が無事に成功裏に終わり安堵しております。まずは、ご参加、ご協力くださいました皆様に深く御礼申し上げます。

この記念式典・記念会の実施にあたっては、2022年5月に創立95・100周年記念準備委員会を設置し、内容や構成等の検討を進めてまいりました。あわせて創立95周年記念誌、創立95周年・創立100周年記念ホームページ、創立100周年記念ロゴマークの製作も検討を進めてまいりました。

今回の記念式典・記念会は、学内関係者を対象として、5年後に迎える創立100周年に向けたスタートの会として開催いたしました。小口理事長による記念講演では、創立100周年、その先の100年に向けた大学としての夢が語られ、皆様との夢の共有の場となったことを嬉しく思っております。また、今回は社会のデジタル化やSDGsの取組みに配慮した試みとして、創立95周年記念誌を、冊子やDVD形式での配布をやめ、WEB閲覧形式に変更し、周知いたしました。

この様に、創立95周年を節目として、昭和大学は創立100周年、またその先の100年へ向けて、新たな挑戦を続けてまいります。引き続き皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



創立95・100周年記念準備委員会委員長

小川 良雄

創立100周年に向けた取り組み（記念事業）

『昭和大学95年の歩み』の発行

創立90周年記念誌を踏襲し、本学における直近5年のできごとをまとめました。

https://www.showa-u.ac.jp/about_us/history/95-100th/



100周年記念WEBサイトの開設

創立100周年の記念となる活動を多くの皆様へ発信するため、創立100周年記念WEBサイトを開設しました。

<https://www.showa-u.ac.jp/100th/>



100周年記念ロゴの制作

「今までの100年とこれからの100年」をテーマとして、100周年記念ロゴを制作いたしました。

「星のシンボルマーク」は校章をモチーフにしており、本学に関係する方一人ひとりの輝きであり、未来に灯す希望、100年という時を刻んだ勲章でもあります。

また、「100th」の文字の真ん中を通過する「未来を見据えた一本矢印」は、至誠一貫や一致団結の漢字の「一」も意味しており、これからの成長を表すため「星のマーク」を目指し進んでおります。



旗の台キャンパス整備事業

病院施設および大学施設の整備を計画するものとなります。

まず、病院施設の整備として、各附属病院の医療機能の強化を目的に、昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院、昭和大学歯科病院、3病院の機能を統合させた、新たな病院の建設を検討しております。

また、大学施設の整備では、旗の台校舎の建て替えのほか、昭和大学病院附属東病院跡地やキャンパス周辺に所有する校地を活用した計画により、本学の中核を担う役割を継続していく予定です。



鷺沼キャンパス整備事業

旗の台キャンパスの校舎整備計画の一環として行うもので、鷺沼校地を「鷺沼キャンパス」として開設する計画になります。

本計画は医学部、歯学部、薬学部の2、3年次と4年次の一部、保健医療学部の2～4年次、助産学専攻科の学生2,000人が学ぶキャンパスとして整備します。



藤が丘病院再整備事業

開院から48年経過した藤が丘病院の再整備を目的とし、引き続き地域の皆さまに安心して医療を受けてい



ただけるよう、機能更新を図ります。そして、横浜北部地域の中核的な病院として、今後も高度急性期医療への対応や災害拠点病院としての役割を担います。

また、本学は、2018年10月に横浜市、東急株式会社と「駅前施設・病院・公園」が一体となった新たなまちづくりに取り組むため、まちづくり推進に関する協定を締結し、2023年3月にはまちづくりの方針を示した「藤が丘駅前地区再整備基本計画（原案）」を公表いたしました。

引き続き、病院建替えに必要とされる機能について検討を進めてまいります。

富士吉田キャンパス整備事業

本学の大きな特徴である、「初年次全寮制教育」を担う富士吉田キャンパスの施設設備の更新を進め、学習環境・生活環境の充実を図るものとなります。学習環境の向上として、新実習棟や新講義棟の建設を予定しております。また、生活環境の向上として、新寮の建設や食堂の改修などを予定しております。

昭和大学の強味である「チーム医療」が芽生える初年次において、質の高い教育を享受できる学習環境とチームの意識を強固にする生活環境を学生たちに提供するべく、富士吉田キャンパスの整備を進めてまいります。



歯科病院旗の台移転事業

『旗の台キャンパス整備事業』に係る事業の一環であり、歯科病院の機能を旗の台エリアに移転することで、昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院の機能を統合した病院の設置を計画しております。



保健医療学部 新学科等設置・再編事業

リハビリテーション学科に、新たに言語聴覚療法学専攻と視覚機能療法学専攻の2専攻を加え、併せて医療技術学科を新設し、診療放射線技術学専攻、臨床工学専攻、歯科衛生学専攻の3専攻の開設を計画しています。



横浜キャンパス 看護専門学校設置事業

旗の台キャンパスに隣接する看護専門学校を横浜キャンパスへ移転させる事業となります。横浜キャンパスの充実した教育環境により、患者の気持ちに寄り添い、社会に貢献できる「至誠一貫」を体現する優れた医療人を育成してまいります。





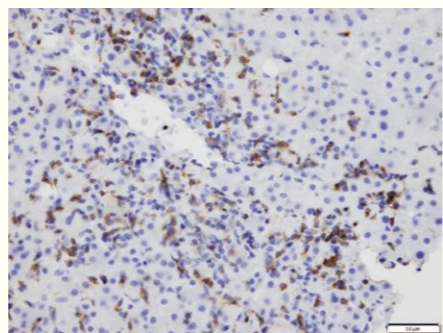
Press Release

昭科大学では最新の研究結果を外部(マスメディア)に発信しています。
ここでは、プレスリリースとして発信した記事を紹介します。

細胞周期阻害剤の免疫活性化メカニズムを確認 乳がん治療の新たな可能性を提示



昭科大学(東京都品川区/学長:久光正)の鶴谷純司教授(同大先端がん治療研究所・所長)と吉村清教授(同大臨床薬理学研究所臨床免疫腫瘍学部門)らは、進行再発乳がん患者における、細胞周期阻害剤と免疫チェックポイント阻害薬を併用する医師主導治験で得られた血液や肝組織検体を用い、細胞周期阻害剤が免疫治療の効果を増強するメカニズムを調べた。血清サイトカイン解析で、TNF関連因子やIL-11の増加と末梢血単核細胞解析で制御性T細胞の低下、肝組織でCD8+リンパ球の浸潤が認められ、細胞周期阻害剤がICIの免疫活性化と相乗的に働くことを確認した。本研究成果は、2023年9月13日に米国がん免疫療法学会誌『Journal for ImmunoTherapy of Cancer』にオンライン掲載された。



肝組織におけるCD8陽性Tリンパ球(論文より変更して掲載)

の肝臓に活性化したリンパ球が集まっていることが分かった。動物モデルで認められた変化を裏付ける、貴重な知見が得られた。

■研究の背景・目的

免疫チェックポイント阻害薬は革新的ながん薬物療法として様々ながん種の標準治療になった。しかし、一部のがんではその有効性が期待できず、恩恵にあずかれない患者さんが存在する。ホルモン受容体陽性の乳がんは、乳がんの中で最も多いタイプだが、免疫チェックポイント阻害薬の効果は乏しいと考えられている。

細胞周期阻害剤はがん細胞の分裂を抑え、転移や進行を抑制する薬剤で、ホルモン受容体陽性の乳がん用いられる。主にがん細胞内のCDK4/6と呼ばれる分子を阻害し、細胞の分裂を抑える以外にも、様々な効果が報告されている。動物実験では腫瘍組織に免疫細胞(活性化リンパ球)を集め、がん細胞の表面にがん抗原を発現させることにより、免疫の効果を増強させるのではないかと報告されている。細胞周期阻害剤で免疫チェックポイント阻害薬の効果を増強することができれば、これまで有効性の期待できなかった患者さんへの効果も期待できる。

■研究成果の概要

今回、免疫チェックポイント阻害薬のニボルマブに細胞周期阻害薬のアベマシクリブを併用した17人の乳がん患者さんから、治療前と治療後の血液、腫瘍、肝生検検体を集めて、免疫が活性化されるメカニズムを調べた。検体は昭科大学先端がん治療研究所(東京都品川区)と同大臨床薬理研究所(東京都世田谷区)に集められ、解析された。血液検査ではリンパ球を活性化するTNF関連因子やIL-11と言われる蛋白が増加し、免疫を制御する制御性T細胞の減少が認められた。さらに、肝障害を起こした患者さん

■今後の展望

免疫チェックポイント阻害薬の効果を上げる併用薬は重要。免疫活性化のメカニズム解明により、あらたな治療法の開発や副作用の低減が期待される。

■研究支援組織

西日本がん研究機構のデータセンター(データセンター長:中村慎一郎)、乳腺委員会(委員長:がん研有明病院 高野利実)

リリース時タイトル/昭科大学などの研究グループが、細胞周期阻害剤が免疫チェックポイント阻害薬の効果を増強するメカニズムを解明 -- あらたな治療法の開発や副作用の低減に期待

掲載誌/ Journal for ImmunoTherapy of Cancer

論文名/ Efficacy, safety, and biomarker analysis of nivolumab in combination with abemaciclib plus endocrine therapy in patients with HR-positive HER2-negative metastatic breast cancer: a phase II study(WJOG11418B NEWFLAME trial)

著者/ Jun Masuda, Hitomi Sakai, Junji Tsurutani, Yuko Tanabe, Norikazu Masuda, Tsutomu Iwasa, Masato Takahashi, Manabu Futamura, Koji Matsumoto, Kenjiro Aogi, Hiroji Iwata, Mari Hosonaga, Toru Mukohara, Kiyoshi Yoshimura, Chiyo K Imamura, Sakiko Miura, Toshiko Yamochi, Hidetaka Kawabata, Hiroyuki Yasojima, Nobumoto Tomioka, Kenichi Yoshimura and Toshimi Takano

掲載日/ Aug.13 2023

DOI/ 10.1136/jitc-2023-007126

本件に関する問い合わせ先/ 昭科大学 先端がん治療研究所 TEL: 03-3784-8145 E-mail: tsurutaj@med.showa-u.ac.jp.

パーキンソン病の原因タンパクによる 細胞傷害機序の一端を解明



昭

和大学(東京都品川区/学長:久光正)の井藤尚仁助教(医学部内科学講座脳神経内科学部門、医学研究科医科薬理学分野4年)と辻まゆみ教授(薬理科学研究センター)、小野賢二郎客員教授(医学部内科学講座脳神経内科学部門、金沢大学医薬保健研究域医学系脳神経内科学・教授)を中心とする研究グループは、大阪大学神経内科学の望月秀樹教授らとともにパーキンソン病^(※1)の原因タンパクと考えられている α -シヌクレインの凝集体による細胞傷害機序の一端を明らかにした。 α -シヌクレインは細胞内で凝集していく過程で細胞毒性を発揮すると考えられているが、本研究では細胞外に放出された α -シヌクレインの高分子オリゴマーによって細胞膜が損傷され、神経細胞死を誘導することが明らかとなり、パーキンソン病の発症に関わる細胞傷害機序の一端を明らかにした。本研究成果は、2023年9月28日に国際学術誌『npj Parkinson's Disease』のオンライン版に掲載された。

パーキンソン病(PD)はアルツハイマー病に次いで世界的に2番目に多い神経変性疾患であり、有病率は65歳以上の人口の約1%を占める。現在、全世界で約600万人が罹患しており、2050年にはこの患者数は倍増すると推測されている。これまでの研究によってPDやレヴィ小体型認知症、多系統萎縮症では、 α -シヌクレイン(α S)^(※2)というタンパクの凝集・蓄積を病理学的特徴とすることが明らかになった。 α Sは単量体から多量体へと凝集し、最終的にはレヴィ小体という細胞内封入体を形成するが、中でも早期あるいは中間凝集段階であるオリゴマーやプロトフィブリル^(※3)がPDの病因において重要な役割を果たすが、これまでの研究により示唆されている。

これまでの研究では主に細胞内で凝集し蓄積する α S凝集体が着目され、ミトコンドリアなどの細胞小器官を介して発揮する細胞毒性が証明されてきた。一方で近年、 α Sは細胞外にも放出され、細胞間を伝播することが明らかになってきた。しかしながら、細胞外に存在する α S自体に細胞毒性があるか、もしくはその傷害機序については解明されていなかった。

本研究ではヒト神経芽細胞腫およびラットの神経細胞に対して、低分子 α S(LMW- α S)および高分子 α Sオリゴマー(HMW- α So)を細胞外から曝露し、HMW- α Soの毒性および細胞膜損傷を介した神経細胞死誘導機序を明らかにし、PDの発症に関わる細胞傷害機序の一端を明らかにした。これらの知見から、細胞外HMW- α Soを標的とした抗体療法が疾患修飾療法として有用であることが期待される。

本研究成果は、2023年9月28日(米国東部時間)に国際学術誌『npj Parkinson's Disease』のオンライン版に掲載された。

■研究の背景・目的

PDはアルツハイマー型認知症に次いで2番目に多い神経変性疾患であり、運動緩慢や静止時振戦、筋強剛などのパーキンソニズム、および様々な非運動症状を特徴とする疾患。PDではレヴィ

小体という細胞内封入体の存在を病理学的特徴として、その主要構造物が α Sというタンパクであることが知られている。 α Sは単量体から多量体へと凝集する過程で細胞毒性を発揮し、最終的にはレヴィ小体という細胞内封入体を形成するが、中でも早期あるいは中間凝集段階であるオリゴマーやプロトフィブリルが細胞毒性をもつことが示唆されている(関連文献1)。また、凝集した α Sは細胞外へ放出され、隣接する細胞へと伝播すると推定されている。

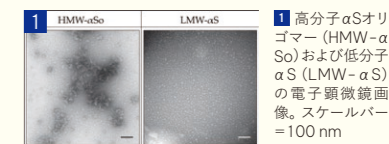
これまで、細胞内に蓄積した α Sによるミトコンドリアを介した内因性アポトーシス誘導は報告されているが(関連文献2)、細胞外環境の α Sによる直接的な細胞傷害機序は解明されていなかった。そこで本研究では、細胞外からLMW- α SおよびHMW- α Soを曝露した際の、細胞膜傷害作用および細胞死誘導機序の解明を目的とした。

■研究成果の概要

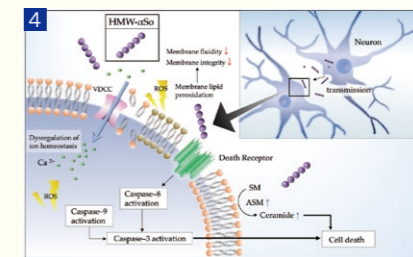
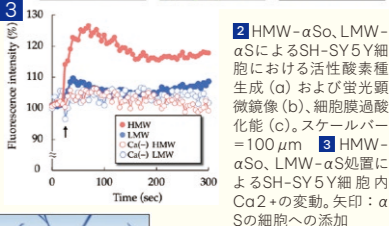
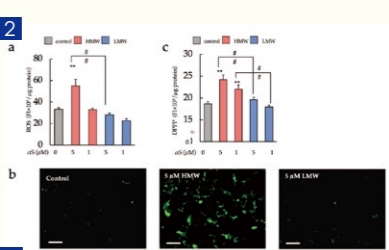
ヒト α Sペプチドをインキュベーションした後に、サイズ排除クロマトグラフィーによりHMW- α Soを分取し、電子顕微鏡を用いてタンパクを観察した(図1)。HMW- α Soはビーズ状に連なる形態を示し、以前に報告されたプロトフィブリルの形態と一致した(関連文献3)。細胞株としては分化誘導したヒト神経芽細胞腫(SH-SY5Y細胞)およびWistar Rat新生児の大脳皮質から単離した神経細胞にこれらの α Sを用いた。そして、それぞれの α Sを処置した細胞における細胞毒性、酸化ストレス(活性酸素種の生成、細胞膜リン脂質過酸化)、細胞内Ca²⁺の変動、Flow cytometryによるアポトーシス細胞検出を測定した。

結果として、HMW- α SoはLMW- α Sに比べて酸化ストレスを誘導し、細胞膜リン脂質を過酸化させた(図2)。

さらに、HMW- α Soは細胞膜に内在するCa²⁺チャネルを傷害することで、細胞外からのCa²⁺の持続的流入を誘導した(図3)。HMW- α So曝露によってアポトーシス細胞が増加



1 高分子 α Sオリゴマー(HMW- α So)および低分子 α S(LMW- α S)の電子顕微鏡画像。スケールバー=100 nm



4 HMW- α Soによる神経細胞傷害機序。HMW- α Soは酸化ストレスを誘導し、それにより細胞膜の流動性を低下させ、細胞内Ca²⁺の恒常性を破綻させる。膜傷害の過程でデスレセプターが刺激され、外因性アポトーシスが引き起こされる

し、caspase-3・8の活性上昇することより、細胞膜を起点とした外因性アポトーシスが誘導されることが示された（図4）。これまで、 α Sは細胞内で凝集する過程で毒性を発揮していく過程に注目されていたが、今回の研究ではそれに加える新たな機序として、細胞外に存在するHMW- α Soが直接、細胞膜障害を誘導することで、神経細胞死を誘導することを発見した。

■今後の展開

α Sは細胞内にとどまるだけでなく、細胞外へと放出されて細胞間を伝播するタンパクである。本研究によって細胞外に存在している α Sも直接細胞膜への傷害作用をもち、神経細胞死を誘導していくことが示された。2023年1月にアルツハイマー病に対する疾患修飾療法として、抗アミロイド β プロトフィブリル抗体であるレカネマブが米国FDAで承認され、本邦においても2023年9月25日厚生労働省により正式に承認された。PDにおいてもプロトフィブリルやオリゴマーを標的とした抗体療法は盛んに研究が進められている。今回の研究は、PDの発症に関わる細胞傷害機序の一端を明らかにし、細胞外 α Sを標的とした抗体療法をより支持する証拠となる。本研究成果は今後のPDのさらなる新規根本治療薬の開発にも役立つものと期待される。

リリース時タイトル／昭和大学などの研究グループがパーキンソン病の原因タンパクである α -シヌクレインの高分子オリゴマーによる細胞傷害機序の一端を解明

用語解説

※1 パーキンソン病 (PD) (Parkinson's disease)：脳内のドパミン神経細胞が減ってしまうことで発症する神経変性疾患。動作が遅くなり、手足の振

るえや筋肉のこわばり、などの運動症状を伴う。さらに自律神経障害や睡眠障害、精神症状などのさまざまな非運動症状を認めることも特徴。

※2 α -シヌクレイン (α S) (α -Synuclein)： α SはSNCA遺伝子にコードされた分子量14 kDa、140アミノ酸から構成されるタンパク質。脳可溶性タンパクの約1%を占めておりヒト脳内に豊富に存在しているが、凝集・蓄積することによって、神経細胞毒性をもつと考えられる。

※3 プロトフィブリル： α Sの凝集過程（モノマー→線維）における中間段階で高分子オリゴマーの範疇に含まれる。

掲載誌／npj Parkinson's Disease

論文名／Extracellular high molecular weight α -synuclein oligomers induce cell death by disrupting the plasma membrane (細胞外 α -シヌクレイン高分子オリゴマーは細胞膜障害を介して細胞毒性をもたらす)

著者／Naohito Ito, Mayumi Tsuji, Naoki Adachi, Shiro Nakamura, Avijite Kumer Sarkar, Kensuke Ikenaka, Cesar Aguirre, Atsushi Michael Kimura, Yuji Kiuchi, Hideki Mochizuki, David B. Teplow, Kenjiro Ono (井藤尚仁、辻まゆみ、安達直樹、中村史朗、アビジット・クマル・サルカル、池中健介、セザール・アギーレ、木村篤史、木内祐二、望月秀樹、デービッド・ビー・テプロフ、小野賢二郎)

掲載日時／2023年9月28日(米国東部時間)

DOI／10.1038/s41531-023-00583-0

関連文献

- 1) Ono, K. The oligomer hypothesis in α -synucleinopathy. *Neurochem. Res.*, 42, 3362-3371(2017).
- 2) Yasuda, T., Nakata, Y. & Mochizuki, H. α -Synuclein and neuronal cell death. *Mol. Neurobiol.*, 47, 466-483(2013).
- 3) Ono, K. et al. Effect of melatonin on α -synuclein self-assembly and cytotoxicity. *Neurobiol. Aging*, 33, 2172-2185(2012).

本件に関する問い合わせ先／昭和大学 薬理科学研究センター 教授 辻まゆみ (つじまゆみ) TEL: 03-3784-8125 E-mail: tsujim@med.showa-u.ac.jp / 昭和大学 医学部内科学講座脳神経内科学部門 客員教授 金沢大学 医薬保健研究域医学系脳神経内科学 教授 小野賢二郎 (おのけんじろう) TEL: 076-265-2292 E-mail: onoken@med.showa-u.ac.jp

日本のセルフケア推進を目指して 「昭和大学ストレスマネジメント研究所」開設



昭和大学（東京都品川区／学長：久光正）は10月1日、旗の台キャンパスに「昭和大学ストレスマネジメント研究所」（所長：中尾睦宏）を開設した。ハーバード大学医学部心身医学研究所（Benson-Henry Institute for Mind/Body Medicine）の協力を得ながら、世界最先端のストレスマネジメント研究を日本で実施していくとともに、研究を通してストレスマネジメントによる疾病予防と重症化予防の費用対効果を明らかにし、日本におけるセルフケアの推進を目指す。

同研究所は、ストレスに関わる最先端の研究を通して、ストレス低減による疾病予防や重症化予防等のエビデンスを構築するとともに、日本におけるストレスマネジメントの推進に貢献する研究・教育・実践を行う活動拠点となる。

所長の中尾睦宏教授（同大ストレスマネジメント研究所）は、ハーバード大学医学部心身医学研究所（Mind/Body Medical Institute, Harvard Medical School）の研究員（Research Fellow, 1998～2000年）そして常勤講師（Instructor in Medicine, 2000～2001年）として、ストレスマネジメント・プ

ログラムの研究・教育・実践に従事した経験を有する。ハーバード大学医学部心身医学研究所は、創設者で所長であったHerbert Benson教授の逝去に伴い、Benson-Henry Institute for Mind/Body Medicineと改名されたが、中尾教授は現在も同研究所の客員研究員（Visiting Scholar）としてストレスに関する共同研究を継続している。

その共同研究の一環として、まずはハーバード大学医学部心身医学研究所のストレスマネジメント・プログラムを、日本ではオンラインで導入する。対面プログラムとの相違点、国際的な文化の違いによる課題、費用対効果などを解明していく。

元気な人はますます元気に、ストレスに悩む人はその軽減を図るプログラムを、12月から開始する。

リリース時タイトル／昭和大学が旗の台キャンパスに「昭和大学ストレスマネジメント研究所」を開設 -- 12月からオンラインによるストレスマネジメント・プログラムを開始予定

本件に関する問い合わせ先／昭和大学ストレスマネジメント研究所 E-mail: stmanage@med.showa-u.ac.jp

昭和大学ストレスマネジメント研究所ホームページ
https://www.showa-u.ac.jp/research/ism/



有効な治療薬が存在しない急性腎障害の 治療・予防方法を発明し特許取得



昭

和大学（東京都品川区／学長：久光正）の柴田佳太准教授（薬学部基礎医療薬学講座薬理学部門／教授：野部浩司）らの研究グループは、「薬剤及び該薬剤を用いて腎臓病を治療又は予防する方法」の発明において特許を取得した。これにより、有効な治療薬が存在しない急性腎障害（AKI）に対する治療薬の開発に繋がることが期待される。

■発明の背景

急性腎障害（AKI）は、腎機能の急激な低下を特徴とする疾患であり、世界中の入院した成人患者の22%が経験するといった報告もある。また、入院中の重症患者のAKIに関連する死亡率は50%を超えており、生存している患者さんでも長期の血液透析が必要となることが多く、予後不良となることは深刻な問題とされている。世界中でAKIの治療に関して様々な研究が行われているが、AKIに有効な治療薬は現在も存在しない。

■当該特許の概要

従来から我々の研究グループが使用している真菌由来化合物SMTPs（*Stachybotrys microspora* triprenyl phenols）が有する抗炎症作用および抗酸化作用により、AKIによる腎機能低下や尿細管傷害を抑制することが示唆されており、現在も有効な治療薬が存在しないAKIに対する治療薬の開発に繋がることが期待される。また、産学連携によって成立した当該特許を基に、AKIを適応症と想定した第I相臨床試験に向けた準備が進められている。



左から、昭和大学統括研究推進センターの三邊武彦センター長、研究チームの柴田佳太准教授、橋本光正兼任講師、野部浩司教授

■特許出願から取得までの経緯

昭和大学と株式会社ティムスの研究グループは、「薬剤及び該薬剤を用いて腎臓病を治療又は予防する方法」の発明について、2018年3月23日に共同出願した。株式会社ティムスとBiogen MA, Inc.（以下、「Biogen」）が2018年6月5日付で締結したOption Agreement（以下、「オプション契約」）に基づく2021年5月11日付オプション権行使に伴い、株式会社ティムスの持分がBiogenに譲渡され、下記の特許が2023年9月26日に成立した。

リリース時タイトル／昭和大学などの研究グループが「薬剤及び該薬剤を用いて腎臓病を治療又は予防する方法」に関する特許を取得

特許概要

・発明の名称：薬剤及び該薬剤を用いて腎臓病を治療又は予防する方法
・特許番号：日本 特許第7356113号
・国際公開番号：WO2019/181388

本件に関する問い合わせ先／昭和大学 薬学部 基礎医療薬学講座 薬理学部門 准教授 柴田佳太 TEL: 03-3784-8212 E-mail: kshibata@pharm.showa-u.ac.jp

創立100周年記念事業募金 ご支援のお願い

本学は令和10年（2028年）に創立100周年を迎えます。この大きな節目を迎えるにあたり、教育・研究・診療体制の充実や更なる発展のため、創立100周年記念事業を策定いたしました。

経済情勢の厳しい折ではありますが、本学における重要な役割を担う記念事業の実現へ向け、新時代への道のりを皆様と共に歩みたいと切に願っております。

皆様には本学の取組みに対して、ご理解・ご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ

総務部企画課 企画サポート係

メール：kikaku@ofc.showa-u.ac.jp
電話：03-3784-8387
FAX：03-3784-8012



2023.11.14

式典・行事 職員

合計218名に表彰状と記念品を贈呈 永年勤続者表彰式

11月14日、上條記念館にて令和5年度永年勤続者表彰式を執り行った。

勤続35年37名、勤続25年58名、勤続15年123名(計218名)に表彰状と記念品が贈呈された。式典後の懇親会では、交流を深める様子が見られた。(永年勤続者一覧はP27Database欄で紹介)



1 表彰式：表彰状授与 2 表彰式：昭和大学宣言
3 懇親会の様子

2023.11.14

富士吉田キャンパス 地域・一般

自衛隊車両やヘリコプターも出動する大規模な訓練 緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練

11月14日、山梨県の山中湖畔を中心に開催された令和5年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練に、保健医療学部看護学科1年生が参加した。

本訓練は、地震に伴う災害及び火山噴火災害という想定のもと、1都9県の消防援助隊、陸上自衛隊、山梨県警察、山梨県、山梨DMAT等の関連機関が実践的な訓練を通して連携強化を図ることを目的として実施された。山梨県での開催は約20年ぶりで、訓練会場には県内外から多くの隊員と参加協力者が集まり、消防関係車両、自衛隊車両、ヘリコプター等も多数集結する大規模訓練となった。

看護学科の学生たちは、道路陥没事故や座屈倒壊建物、毒劇物対応や避難誘導など、各状況想定における要救助者として参加し



1 自衛隊車両で搬送される学生たち
2 消防防災航空隊によるヘリ降下訓練の様子
3 要救助者役の学生

た。中には、閉じ込められた自動車からの救出を待ったり、自衛隊車両で搬送されたりする学生もいた。

晴天に恵まれたとはいえ、標高約1,000メートルの湖面を渡る11月の風は冷たく、夕刻に至ると厳しい寒さとの闘いにもなったが、学生たちは、いつの日か救助や救命する側に立つ看護学生として、みな最後まで真剣に訓練に取り組んでいた。

2023.11.22

旗の台キャンパス 横浜キャンパス 富士吉田キャンパス

今年の冬も各キャンパスを華やかに演出 イルミネーション点灯式

11月22日、旗の台キャンパスにてイルミネーション点灯式を執り行った。

学生代表3名がカウントダウンに合わせて点灯スイッチを押すと、中庭を包み込むようにイルミネーションが一斉に輝き、集まった人々から歓声が上がった。

富士吉田キャンパスは11月24日、横浜キャンパスでは12月1日にそれぞれ点灯式を行った。

今年も趣向を凝らしたイルミネーションが用意されている。期間は2024年2月まで。



1 学生代表による点灯の瞬間 2 イルミネーションの様子
3 横浜キャンパス 4 富士吉田キャンパス

2023.11.23

式典・行事 看護キャリア開発・研究センター

セカンドレベル修了50名が 看護管理者としての活躍を胸に新たな一歩

11月23日、2023年度認定看護管理者教育課程セカンドレベルの修了式を開催した。

今年度は50名が全課程を修了し、出席者32名に増田千鶴子看護キャリア開発・研究センター長から修了証が授与された。

増田センター長は挨拶で「課程の約4か月間、講義と演習を組み合わせ、自らの意見や他者の意見を踏まえて考える力を習得したのではないかと思います。統合演習では、45時間をかけて自組織の分析から問題の焦点化、改善計画を立案しました。1年後、その計画の実施を報告し成果を確認していただきます。今後の活躍を期待しております」と述べた。

修了生代表は挨拶で「看護師不足や世の中が急激に変化して



1 記念撮影 2 挨拶：増田千鶴子看護キャリア開発・研究センター長
3 研修生代表の挨拶：中瀬麻子さん 4 修了証授与

いく中、看護師がより安全で、長く活躍できるための取り組みは、喫緊の課題です。研修で学んだことを活かし、患者・利用者の最善の利益を第一に考え、看護管理者として研修生一同精一杯努力していきたいと思います」と述べ、決意を新たにしました。

2023.11.24~26

富士吉田キャンパス 学生生活

寮生活最後の思い出づくり 富士吉田でウィンターパーティー開催

11月24日から26日までの3日間、富士吉田キャンパスでウィンターパーティーを開催した。

学生たちは、完全退寮が近づいている中、寮生活最後の思い出となるウィンターパーティーを十分に楽しんだ。

初日の24日にはイルミネーション点灯式が行われ、キャンパス内に準備されたイルミネーションが一斉に輝きだすと、学生たちからは歓声が上がった。

25日・26日には、ライブステージやスタンプラリー、ドッジボール大会など、学生たちが企画したイベントが行われた。

最終日の26日は、夕日が沈んだ後、代表学生4名がキャンプファイヤーに火を灯し、その周りで皆が輪になり音楽に合わせて踊ったり、ジェスチャーゲームを行った。そして、色鮮やかな打ち上げ花火が夜空を彩った。

さらに、今年はキャンプファイヤーでサツマイモを焼き、花火を楽しんだ後、キャンプファイヤーの残り火を囲んで食べる焼き芋は格別だった。



1 ライブステージの様子 2 点灯したイルミネーションを楽しむ学生たち
3 キャンプファイヤーの様子 4 ドッジボール大会の様子

日本調剤

全国に広がる、日本調剤のネットワーク。

日本調剤株式会社(本社：東京都千代田区丸の内、東証プライム市場上場)は、全国47都道府県で700以上の調剤薬局を展開している企業です。

お気軽にご相談を!!

◆ 万が一のための保障準備
◆ 住宅ローン・資産運用 など



お問い合わせ・ご予約は
三井住友銀行 旗ノ台支店
東京都品川区旗の台1-4-15
TEL. 03-3785-3012



安全祈願の祭事「ボイラー祭」を各キャンパスで執り行う

令和5年度ボイラー祭を各キャンパスで執り行った。11月6日は旗の台キャンパス（昭和大病院・昭和大病院附属東病院・昭和大7号館）、11月7日は富士吉田キャンパス、11月17日は横浜キャンパスでそれぞれ祭事を行った。

寒さが日々厳しさを増していく冬に向けて、本学では建物内の空調設備を暖房運転に切り替える。その暖房運転の要となるのがボイラー設備である。

ボイラーの本格的な稼働にあたり、設備の安全運転と職員の健康を祈願した。

※ボイラー祭とは、ボイラー設備がある事業所で行う安全祈願の祭事。江戸時代、毎年11月8日に行われていた火の神様に感謝する「ふいご祭り」が由来とされている。



1 富士吉田キャンパス（参列者代表：倉地夏樹事務長） 2 横浜キャンパス（参列者代表：鈴木久義学部長） 3 昭和大病院（参列者代表：相良博典病院長）

教育者を目指して大学院生114名が受講 医療人教育演習（プレFD）

11月11日と12日に「医療人教育演習」（プレFD）を旗の台キャンパス教育研修棟にて開催した。

この演習は、未来の教育者の養成を目的とし、医学・歯学・薬学研究科博士課程、保健医療学研究科博士後期課程の大学院生114人を2日に分けて、1日間のプログラムを実施した。

演習は8班に分かれ、各班6~8名の研究科混成グループで課題についてディスカッションの後、その結果を全体会で発表する。

アイスブレイクを兼ねた「印象に残った教育・学修」では、これまで受けた教育・学修で、最も強く印象に残っているものについて、各自絵を描いた後、班内で説明しその中で特によかったもの2つを全体会で発表した。

また、学修成果基盤型教育に基づくカリキュラムプランニングについて説明を受けた後、各班に提示された学部合同科目の「目標」「方略・評価」をグループディスカッションによって作成し、全体会



で発表・討論を行った。

朝から夕方までの熱心な討議・発表を通して、教育スキルの修得のみならず、昭和大の教育の特徴（チーム医療）について理解を深め、また、職種や専門分野、出身大学等異なる大学院生同士の貴重な交流の場にもなった。

なんでもご相談下さい。

医学堂書店

有限会社 医学堂書店

〒142-0064 東京都品川区旗の台1-11-9
TEL 03-3783-9774 FAX 03-3783-3156
Email igakudo@peridot.bforth.com

あなたには眠りやすい角度がある。
「入眠角度」という新提案。

ベッドが動けば、眠りは変わる。

Active Sleep BED

パラマウントベッド株式会社
東京支店 〒136-8670 東京都江東区東砂2丁目14番5号 www.paramount.co.jp
(03)3648-1171(代)

避難計画の精度向上を図る 本格的な避難訓練を実施

各校舎での避難訓練を11月に実施した。東日本大震災と同等レベルの震度6強の地震が発生し、これに伴って館内で火災や崩落が発生した場合を想定して行われた。

旗の台キャンパス（11月9日） 参加者は緊急地震速報をきっかけに、倒れてくるものから離れる等、身を守る行動をとった。その最中に館内放送で火災の発生が周知され、同時に避難指示が出されると、避難場所へ向けて一斉に避難を開始した。避難完了後、火元責任者が災害対策本部へ報告し、被害状況を把握する際の段取りを確認。

終了後には、災害対策本部構成員が今回の訓練の振り返りを行い、避難行動の精度向上のために解決すべき課題を共有し、すみやかに対処することを共通認識した。

横浜キャンパス（11月17日） 参加者は緊急地震速報をきっかけに、倒れてくるものから離れる等、身を守る行動をとった。今回は雨天だったため、避難指示が出されて動き出すまでの訓練とし、人員の点呼を行い、代表者が本部に報告した。対策本部は当日の授業予定の学年の人数の点呼や各階の避難人数の報告を受け取りまとめを行った。

訓練後、横浜市緑区消防署十日市場消防出張所所長より「避



1 旗の台：出火元確認 2 旗の台：災害対策本部への状況報告 3 横浜：人数点呼報告 4 横浜：訓練後の様子（消防署より講評）

難計画がうまく練られているためスムーズに訓練ができていたと思う。避難計画は、雨天や、避難人数によっても変更を求められるため、日々意識して行動していただきたい」と講評をいただいた。

質の高い実習指導を目指し67名が修了 保健師・助産師・看護師 実習指導者講習会修了式

12月18日、横浜キャンパスにて神奈川県保健師助産師看護師実習指導者講習会・昭和大保健師助産師看護師実習指導者講習会の合同修了式を執り行った。

本講習会は効果的で質の高い実習指導を行う指導者を養成し、看護基礎教育の質の向上を図ることを目的として開講している。

はじめに、鈴木久義 保健医療学部長から67名の受講生一人ひとりに修了証が授与され、閉講の挨拶があった。

続いて、田中晶子 保健医療学部 看護学部主任の挨拶の後、荒川千春 統括看護部長が来賓祝辞として「本学の建学の理念『至誠一貫』-まごころを尽くす-とありますが、効果的な指導というのは、相手の立場に立ち、気持ちを理解し考えて指導することが大切であると実感します。講習期間は終了しましたが、さらに自己研鑽を積み、立派な教育者になってもらいたいと思います」と今後の活躍への期待を示した。



最後に、修了生代表が謝辞を述べ、閉式となった。

合計740名が参加し盛況を博する 秋期公開講座「暮らしと健康」

秋期公開講座「暮らしと健康」が10月から11月にかけて各施設で開講。各講演終了後には、参加者から多数の質問があり、講師は一つひとつ丁寧に答えていた。次回の昭和大学公開講座は来年度春期の開催を予定している。

旗の台キャンパス 今回は「いくつになっても美味しく食べよう」との副題のもと、職員4名が講演し、11月11日、18日の2回開催、あわせて233名が参加した。

11月11日 古屋純一教授(歯学部口腔健康管理学講座口腔機能管理学部門)が「オーラルフレイル対策で食べる楽しみいつまでも」と題して、むし歯や歯周病を予防し、義歯を入れることで口腔機能を維持・向上することの大事さについて分かりやすく解説した。

続いて、一関千聡言語聴覚士(藤が丘病院リハビリテーション室)が「レッツ喉トレ!~食べる・話すに必要な筋肉を鍛えよう~」をテーマに、「食べること」や「話すこと」に必要な筋肉の維持・向上を目指すための知識とトレーニング方法について紹介した。参加者からは「オーラルフレイル対策の大切を実感した」などの感想が多数寄せられた。

11月18日 金木美佳管理栄養士(昭和大学病院栄養科)が「いつまでも元気な体づくり~その1食」がポイント~」と題して、筋肉を落とさないように栄養素をバランス良く摂取するための食事の摂り方について分かりやすく解説した。

続いて、赤川圭子講師(薬学部社会健康薬学講座社会薬学部門)が「美味しく食べ続けるための付き合い方~処方薬・市販薬・サプリメント~」をテーマとして、市販の胃腸薬の適切な選び方や胃腸の調子に影響する薬やサプリメントなどについて紹介した。

参加者からは「日常生活に役立ち、今までの食生活を見直す、よいきっかけになった」などの感想が寄せられた。

横浜キャンパス 11月4日、公開講座を開催し、26名が参加した。

青木啓一郎講師(保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)と渡部喬之准教授(保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)が「嚥下と食事講演会 飲み込みのしくみ~おいしく食事を楽しむために~」と題して、飲み込みの仕組みや摂食嚥下障害、誤嚥性肺炎について分かりやすく解説した。講座の終盤では「誤嚥予防のための体操」として、猫背の改善体操や舌・唇・頬の体操について実践方法をレクチャーし、食事の前の嚥下体操が重要であると説明した。

参加者からは「嚥下体操を家族に教えたい」等の声が寄せられた。

富士吉田キャンパス 11月18日、公開講座を開催し、50名が参加した。

まず、有澤岳講師(富士吉田教育部)が「身近にある危険!? な植物」と題して、加工しないそのまま食べると毒があるものや、特定の条件下では身体に害を及ぼすもの、庭でよく見かける草花だが毒があるものなど、注意が必要な植物について紹介した。

続いて、田村将希講師(昭和大学スポーツ運動科学研究所)が「ケガの予防のために~効果的なストレッチングのポイント~」をテーマとして、日常生活で実践しやすく効果的なストレッチング方

1 旗の台キャンパス公開講座 2 横浜キャンパス公開講座 3 江東豊洲病院公開講座 4 横浜市北部病院公開講座 5 烏山病院公開講座



法について、エビデンスに基づいて紹介した。

参加者からは「日頃見ている草花、植物等に毒があると知り驚いた」などの声が聞かれ、盛況のうちに終了した。

江東豊洲病院 10月28日、【みんなで知っておきたい認知症】をテーマに公開講座を開講し、109名が参加した。

石原ゆきる看護師による『認知症を知ろう! 3つのポイント』、山下実里作業療法士による『今から始めよう! 認知症予防体操』および鉾丸俊一精神保健福祉士による『困ったときの相談窓口』と関心の高い題材を中心に講演が行われた。

参加者からは「認知症を知る事は高齢社会でこれから大切な事です。専門のスペシャリストにお話を聞けてよかったです」などが寄せられ、次回の開講への期待の声もあった。

横浜市北部病院 10月28日、公開講座を対面とオンラインのハイブリットで開講した。対面10名、オンライン49名の計59名が参加した。

市塚清健教授(産婦人科)による『無痛分娩について正しく知ろう~メリットとデメリット~』および三澤将史講師(消化器センター)による『大腸がんリスクを減らす! ~AIが見守る大腸内視鏡~』と各専門分野の先端医療について講演が行われた。

参加者からは「自分のこととしてだけでなく、家族の今後のリスクについても考える時間になりました」などが寄せられ、実生活に紐づく内容が好評を得ていた。

烏山病院 11月25日、同日開催の東京都精神科地域医療地域連携事業講演会とともに公開講座を対面とオンラインのハイブリットで開講した。対面81名、オンライン182名の計263名が参加した。

水野健作業療法士による『発達障害専門ケアの取り組みとその効果~一人ひとりのゴールを目指した支援~』および常岡俊昭准教授(精神神経科)による『発達障害と依存症』の講演が行われた。

参加者からは「発達障害と依存症の共通点は勉強になりました」などテーマに関心を持った感想が寄せられた。

保健医療学部白衣授与式で 159名が決意を新たに臨床実習へ

12月22日、令和5年度保健医療学部白衣授与式を上條記念館で執り行った。

同式は、臨床実習に臨むにあたり、白衣を授与して医療人を目指す者としての自覚を促し、心構えを新たにすることを目的に毎年実施している。

鈴木久義保健医療学部長は告辞で、「臨床実習での学修の場は患者さんにとっては治療・療養の場です。患者さんやそのご家族を第一に、特に情報の管理に十分注意し行動してください。真摯な態度で臨む実習は、教科書からでは決して得られない、将来の医療人たる皆さんを形作る貴重な体験となるでしょう。同級生を大いに助け、また頼りにして取り組み、『至誠一貫』を体現できる看護師・理学療法士・作業療法士になれるようお祈りしております」と述べた。

学部長からの告辞後、2年生159名一人ひとりに教育職員から白衣が授与された。

続いて、列席者からの祝辞の後、「先輩からの言葉」として4年生代表の嘉瀬優一郎さん(理学療法学科)からメッセージが送られた。嘉瀬さんは「授与された白衣は実習における正装であり、医療人としての責任を伴う大切なものです。臨床実習では時間の遵守、コミ

1 白衣授与 2 代表者による昭和大学宣言



ュニケーション、そして体調管理に留意して取り組んでください。実習を通して、医療人として大切なこと、自身の役割など、自分なりの答えを見つけていってください。努力をしている学生に先生方は優しく指導してください。皆さんの実習が学びの多いものになることを祈っています」と述べ、学生たちは熱心に耳を傾けていた。

最後は代表者による昭和大学宣言を行い、医療人としての誓いを新たに、閉式となった。

真新しい白衣を身につけた学生たちは、本学附属病院をはじめとする各施設で実習に取り組み、チーム医療の現場において、看護師・理学療法士・作業療法士それぞれの役割を学んでいく。

約60名が参列し哀悼の意を捧げる 実験動物慰霊祭

12月15日、池上本門寺本殿(東京都大田区)にて実験動物慰霊祭を執り行った。

本慰霊祭は、本学の教育・研究に資するため尊い命を捧げた動物に対して、感謝と哀悼の意を表する儀式。

当日は、動物実験に関わる各学部の教育職員や学生、約60名が参列し、御霊のご冥福を祈った。



— 生協は学園生活のパートナーです —



昭和大学生協同組合

旗の台: 3788-2322(内線)8268 アミ: 3785-9729(内線)8369
吉田: 0555-23-8505 洗足: 3787-4432 横浜: 045-985-9624

昭友商事株式会社

昭和大学の皆さまへ
便利なサービス・商品を提供します!

昭和大学富士吉田の天然水

イベント業務委託

昭和大学オリジナルワイン

ローソン&タリーズ

QUOカード・VJAギフトカードなど その他色々!

お気軽にお問い合わせください! ☎ 3784-8280

メダカとマウスにおける タクロリムスの骨修復促進作用解析で高評価 SCRP日本代表選抜大会で優勝

歯学部4年の杉木秀光さんが令和5年度日本歯科医師会学生・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)日本代表選抜大会(8月25日: 歯科医師会館)で優勝した。SCRPは、歯科学生が自らの研究テーマについて英語でのプレゼンテーションを競う大会で、今年度は17の歯科大学(歯学部)が参加し、4大会ぶりに対面での発表・審査が行われた。杉木さんは研究テーマ「Analysis of stimulatory effect of tacrolimus on bone repair in medaka fish and mouse (メダカとマウスにおけるタクロリムスの骨修復促進作用の解析)」で英語によるプレゼンテーション・質疑応答を行い、その内容が高く評価された。杉木さんは、来年3月に米国ルイジアナ州ニューオーリンズ市で開催されるAADOCR/SCADA大会に招待され、日本代表として発表するとともに、世界各国の代表学生、歯学研究者等と交流を図る予定。



1 優勝へのトロフィー授与(写真左から)杉木秀光さん、畔津佑季助教
2 トロフィー授与後、参加者全員の前で研究成果を英語でプレゼンテーションしている様子
3 学内での表彰式(写真左から)馬場一美歯学部部長、畔津佑季助教、杉木秀光さん、高見正道歯学部長

【杉木秀光さんのコメント】

私は、マルチドクタープログラム歯学研究科コース科目等履修生として歯科薬理学分野に所属し、免疫抑制薬タクロリムスが骨の恒常性維持に及ぼす影響について解析してきました。タイムラプスイメージング解析では5日間交代で4時間毎に画像撮影をおこない、生体内での個々の細胞の挙動を解析しました。その結果、タクロリムスに骨折回復や骨欠損修復を促進する作用があることを見出し、本大会で発表しました。

発表前日まで歯学部の前期定期試験があったため、試験勉強と発表練習を両立させるのはこれまでになく大変でした。当日は、審査員の前で行った計3回の発表のうち、最初の発表では緊張でやや慌ててしまいましたが、それで不安が吹っ切れ、残り2回

の発表では落ち着いて発表することができました。他大学の代表者は私よりもはるかに流暢な英語で研究成果を発表されていたので、優勝者として私の名前が読み上げられた時は、今までの人生で一番驚きました。そして、来年3月の米国AADOCR/SCADA大会では、世界の方々に私の研究について一生懸命伝えたいと思います。

今回の優勝は私一人の力では決して得られないものでした。親身になって研究を指導して下さった歯科薬理学講座の畔津佑季助教、研究の楽しさを教えて下さった高見正道教授、そして私の実験を支えてくれた歯学研究科大学院生の竹開さんと西田訓子さん、またSCRP関係者のみなさまに心より感謝申し上げます。

約120名の児童を対象に 特別協定校で模擬授業を実施

9月22日、保健医療学部看護学科、リハビリテーション学科(理学療法専攻・作業療法専攻)の教育職員とSI(学生インストラクター)の学生が、森村学園初等部にて、5年生約120名を対象に、模擬授業を行った。昭和大学と森村学園中等部・高等部は特別協定校として協定を結んでおり、その一環で授業が実施された。

受講する児童は、看護師、理学療法士、作業療法士の職業について事前課題で学習してきており、はじめは職業紹介とともに事前学習の復習を行った。

そして、3つの分野の授業を順番に体験した。

看護学科の分野では『生命兆候(バイタルサイン)とは』を主題に「自分の脈拍をはかってみよう(脈拍推定)」「友達の心臓の音をきいてみよう(心音聴取)」「運動した時の脈拍をはかってみよう」「瞳孔の大きさをはかってみよう」の学習をした。

理学療法専攻の分野では『動作の不思議』を主題に「片足



1 「運動した時の脈拍をはかってみよう」
2 全体のまとめ

立ち、椅子から立ち上がり動作の仕組み」「重心とバランスの理解」「足圧測定装置にて重心の可視化」について取り組み、作業療法専攻の分野では『自助具の使いかた』を主題に「利き手と逆の手で普通の箸を使ってみよう」「利き手と逆で自助具を使ってみよう」について学習をした。

児童たちは関心を持って楽しく学ぶことができ、盛況のうちに終了した。

授業終了後のアンケートでは、「知らないことがたくさんあって勉強になりました」「今日勉強したことを家族に話してみたいです」「将来なりたい職業が変わったかもしれない」などの感想があった。

今後も両校は、様々な相互交流を通じて、高大連携を強めていく。

横浜キャンパスで省エネ行動を促す試みを実施 脱炭素社会の実現を目指す 横浜市の取り組みに協力

9月29日、横浜市は、2050年までの脱炭素社会の実現を目指し、ナッジ手法^(※)を活用した省エネ推進に関する取り組みを横浜市内に所在する昭和大学横浜キャンパスにて実施することを発表した。

今回の協力は、令和4年度第5回大学・都市パートナーシップ協議会事務担当者会議で紹介された大学における省エネ推進の取り組みに関する募集に対し、横浜市温暖化対策実行計画(令和5年1月)の、無理なく、効果的な取り組みを促す「ナッジ」を活用した施策に賛同し、実施することとなった。

取り組み概要: キャンパス内に電力使用量を計測・表示する機器

※ナッジ手法: 規制や経済的インセンティブではなく、行動科学の知見に基づき、行動が行われる環境をデザインすることで行動変容を後押しする手法のこと。



「モニターキット」を設置し、使用電力の見える化を実施する。

さらに、日々の使用電力の変化を可視化し、液晶モニターやメールにてお知らせするというナッジ手法の活用により、学生や大学職員の意識の変化を促し、省エネ行動を促進する。

モニターキットは10月13日に設置され、令和6年3月まで計測を継続する。

保健医療学部3番目の学部間協定 タイのワライラック大学と 協定締結

10月10日、昭和大学はタイのワライラック大学保健医療学部および看護学部と学部間協定を締結した。本協定は、保健医療学部にとって3番目の協定、タイの大学とは初めての協定。ワライラック大学のUrai Jaraeprapal副学長、Jitbanjong Tangpong保健医療学部長、およびOrapen Sukhavalli看護学部長らが引率された学生達の来校に合わせ、調印式を開催する運びとなった。

調印式では、鈴木久義保健医療学部長とJitbanjong Tangpong保健医療学部長、Orapen Sukhavalli看護学部長により、出席者の紹介と両者の共同研究の取り組みから協定に至った経緯の説明があった。

その後、宮崎隆国際交流センター長と鈴木久義保健医療学部長、Jitbanjong Tangpong保健医療学部長、Orapen Sukhavalli看護学部長が協定書に署名した。

最後に、来校したワライラック大学の皆さまを囲んで記念撮影をした。



1 記念撮影 2 左からUrai Jaraeprapal副学長、Orapen Sukhavalli看護学部長、鈴木久義保健医療学部長、宮崎隆国際交流センター長

両校は、今後教育職員及び学生の相互交流を行うことを予定していく。

【出席者一覧】

昭和大学
宮崎隆 国際交流センター長、副学長
鈴木久義 保健医療学部長
三村洋美 保健医療学研究科長
榎田めぐみ 教員推進室長・教育委員長
田中晶子 看護学科 学科主任 国際交流委員会 委員長
加賀谷善教 リハビリテーション学科 学科主任 学生部長

ワライラック大学
Assoc. Prof. Dr. Urai Jaraeprapal 副学長
Asst. Prof. Dr. Orapen Sukhavalli 看護学部長
Assoc. Prof. Dr. Jitbanjong Tangpong 保健医療学部長
Asst. Prof. Dr. Suriyan Sukati 保健医療学部国際プログラム長

CPC単剤洗口がデンチャープラーク内細菌叢に与える影響について発表 国際補綴歯科学会で最優秀ポスター賞

歯学研究科3年の田原広子さん(歯学研究科歯科補綴学専攻)が、国際補綴歯科学会(2023年8月30日~9月2日:International College of Prosthodontics London Symposium-Satellite Meeting)において、演題名『Effect of CPC single agent mouthwash on the bacterial flora in denture plaques(CPC単剤洗口がデンチャープラーク内細菌叢に与える影響)』を発表し、ポスター部門で最優秀基礎科学研究賞(First Place in the Poster Competition-Basic Science Research)を受賞した。同賞は、厳正なる審査の結果、47審査対象演題中1演題(受賞率2.13%)に対して授与された。

【田原広子さんのコメント】

このたびはInternational College of Prosthodonticsのポスターコンペティションにおいて最優秀ポスター賞(Best Basic Science Research)を賜り、大変光栄に存じます。

本研究では上顎全部床義歯装着患者を対象に、殺菌作用のある塩化セチルピリジウム(CPC)の単剤洗口液の使用によるデンチャープラーク付着抑制効果と細菌叢に及ぼす影響について検証し、その産生細菌であるStreptococcus属が有意に減少することが判明しました。

現在の日本において、死因の上位にある誤嚥性肺炎や感染性心内膜炎等の疾患予防を行うことは重要です。また超高齢社会に伴いフレイルや認知症は大きな問題点の一つとして挙げられます。



1 授賞式(左から)田原広子さん(歯学研究科歯科補綴学専攻3年)、David Bartlett教授(King's College London) 2 発表ポスターと田原広子さん

洗口剤という日常に取り入れやすいものから、口腔への意識を高め生活習慣を身につけることは、全身への健康改善・増進にも繋がるのではないのでしょうか。

本研究が患者様の健康に少しでも貢献できるよう、引き続き精進してまいります。

最後に今回の発表に際し、真摯にご指導いただきました馬場一美教授(歯学部歯科補綴学講座歯科補綴学部門)、岩佐文則准教授(同)、池谷賢二助教(同)、桑田啓貴教授(歯学部口腔微生物学講座)、梅澤はるか助教(同:当時)をはじめ、関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

骨粗鬆症薬中止後に起こる合併症(多発骨折)について研究 米国骨代謝学会で Young Investigator Award

石川絃司講師(医学部整形外科学講座)がASBMR2023(The American Society for Bone and Mineral Research 2023,カナダ・バンクーバー:10月13日~16日)でYoung Investigator Awardを受賞した。ASBMR(米国骨代謝学会)は、骨代謝学における世界最大の学会であり、演題は臨床系から基礎系まで多岐に渡り、学会員の約半数は北米以外の会員で占められる国際色豊かな組織である。石川講師は、「Mouse model of uncoupled bone remodeling upon discontinuation of anti-RANKL antibody therapy」の演題で、1,200以上ある全演題の約10%にあたる口演発表に採択され、さらにその内容が高く評価され同賞に選定された。

【石川絃司講師のコメント】

この度、栄誉ある賞を受賞することができ、大変光栄です。また、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。超高齢社会において、「骨の健康」は健康長寿を実現する上で欠かせません。そして、最も重要な治療・予防が骨粗鬆症薬療法になります。多くの有用な骨粗鬆症薬が登場している一方で、2016年頃より一部の骨粗鬆症薬(Denosumab)の治療を中止すると、多発骨折の危

険性が高まることが報告されておりました。しかし、メカニズムは解明されておらず、薬剤を中止したことによる影響なのか、詳細は不明でした。私は実臨床の場において合併症を有した患者さんの治療を経験したことがあり、本研究テーマを創案するに至りました。本研究では、この薬剤中止後に起こる合併症のメカニズムを基礎的に初めて解明し、改めて治療を継続することの重要性を示しました。臨床にも還元し得る内容であり、国際的な評価をいただいたものと思っております。

本研究は薬理科学研究センター(歯学部歯科薬理学講座)の根岸貴子兼任講師(現:順天堂大学・特任准教授)の指導の元で行われ、センター長である木内祐二教授はじめ、多くの研究者や医療関係者の方々に支えられ発表することができました。改めて、整形外科学講座の皆様と、ご指導いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。今後も、「骨の健康」の普及・発展の一助となれるよう、精進していきたいと思っております。

授賞式でASBMR PresidentのProf.Mary L. Bouxseinより表彰盾を授与



特別協定校の教員を対象に 「中高生のメンタルヘルス」研修会を実施

10月24日、浅沼瞳准教授(保健医療学部看護学科)が、大学の特別協定校である昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校の教員を対象に研修会を実施した。

この研修会は「中高生のメンタルヘルス」と題し、心身ともに成長途中の生徒が抱える様々な問題に対して、どのように関わり、その心をケアしていくのかについて、グループワークを取り入れて行われた。当日は同校から80名近くの教員の方々が参加した。『私』というアイデンティティを確立するために様々な対人関係の中で葛藤を経験し揺れ動く思春期の生徒に対し、相手の視点に立ったメンタルヘルスクアを学ぶ姿に生徒対応への真摯さと熱意がうかがえた。

グループワークでは、生徒がおかれている状況について、その視

1 浅沼瞳准教授
2 研修会の様子



点に立って推測し、また教員としてどう関わるべきかについて積極的に議論され、教員同士お互いの考えを共有する機会にもなった。

今後も両校は様々な相互交流を通じて、高大連携を強めていく。

メトホルミンという薬剤の研究が高い評価を受ける 日本メイラード学会年会で若手研究者奨励賞

八島広典助教(医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科学部門)が第33回日本メイラード学会年会(2023年10月12日~13日:東京大学)において若手研究者奨励賞を受賞した。

同学会は、フランスの科学者Louis Camille Maillard博士(1878~1936年)の人名に由来するアミノ基とカルボニル基の間で起こるアミノカルボニル反応である「メイラード反応」の研究に特化した学会。「メイラード反応」を経て生体内で生じる終末糖化産物(AGEs)が、動脈硬化、がん、アルツハイマー病、腎臓病、骨粗鬆症、歯

周病、不妊症など種々の加齢性疾患の病態や発症の起源となること、同学会での研究により解明されてきている。

八島助教は演題名「メトホルミンはAMPK活性化を介してCdk5-CD36経路を抑制し、マクロファージ泡沫化拮抗作用を示す」の発表が高く評価され、同賞に選定された。

(左から)山岸昌一教授、八島広典助教



日本蛍光ガイド手術研究会 Kitajima-Yang Premium Prize

選定理由 蛍光ガイド手術の基礎を築き上げ、黎明期よりこれまでの発展を支えた業績を讃える

受賞者 青木武士教授(医学部外科学講座消化器一般外科学部門)

日程 2023年9月1日~2日・JPタワー名古屋ホール&カンファレンス



授賞式の様子(右から2番目が青木武士教授)

どなたでも様々な用途で
ご利用いただけます。

計600席、学会・講演会・式典・コンサートに!
上條ホール

ケータリングで立食500名まで対応可能
バンケットルーム・富士楼

Web会議やWeb講演会にも最適!
会議用機材や配信サポートもご相談ください
賞会議室(約20㎡[定員4名]~約503㎡[定員288名]の8室)

昭和大学
上條記念館

昭和大学 上條記念館管理事務室
〒142-0064 東京都品川区旗の台1丁目1番地20
TEL. 03-3784-8030 (平日9時~17時)
Mail kinenkan@ofc.showa-u.ac.jp
https://90th-showa.jp/kamiyo_memorial_hall/

学生寄稿 初年次体験実習報告

「リアル」を体験し 私が出た学び」

10月、約3週間にわたり、学部混合のグループ学習「初年次体験実習」が行われた。施設実習や病院実習など他学部生とのグループワークを通して、早期からチーム医療マインドと幅広い視野を養うことを目的としたカリキュラムとなっている。「初年次体験実習」を終えた学生たちに振り返りや今後の展望を聞いた。

不自由体験実習

実習での学びを 活かせる医療人へ

保健医療学部
リハビリテーション学科
作業療法学専攻
金田梨花



不自由体験実習では、視界が狭くぼやけたゴーグルや重りを四肢に装着するなどして高齢者特有の体の不自由さを体験したり、高齢者の介助者側を体験したりする実習を行いました。それにより、高齢者がストレスを感じにくく、安心してもらえる介助の仕方を学ぶことができました。また、言葉で伝えるのではなく、指で進行方向を示すなど身体を使って表現した方がわかりやすいことに体験を通して気づくことができました。

不自由体験実習で患者さんと同じ目線に立つことで、私たちが将来医療人になった際に、治療方針や接し方を考え直すことのできる良いきっかけになったのではないかと思います。

昭和大学藤が丘病院での実習では、薬剤部・内視鏡・救急救命センター・臨床工学室・臨床検査室を見学しました。臨床工学室は医療器械を操作及び保守点検をすることで、臨床検査室では血液を調べたり超音波等を駆使したりすることで医療を支えています。机に向かって勉強をするだけでは得ることができない「現場の知識」というものも見学することができました。実際の医療現場での雰囲気や内視鏡で見た連続の消化管内などは、教科書を読むだけでは得ることができない貴重な体験で、今後の学修においてのモチベーションを高めるものでした。数年後には自分が医療現場に足を置き、立っているのだという自覚を持ち、将来を見つめながら勉強していきたいと思っています。

病院実習

将来像の視認



医学部
奥田和樹

今回、私は富士吉田キャンパス周辺にある有料老人ホームを訪問しました。実習では、利用者の方の排泄介助を行っているところを見学させていただき、手引き歩行や車いす介助を体験させていただいたり、実際の現場で多くのことを学ぶことができました。中でも、私が一番学んだことはコミュニケーションです。初めは、利用者さんとの会話で話題を探すことに苦戦しました。しかし、自ら進んで、明るくコミュニケーションをとることが重要だと気づくことができました。今回の経験を活かし、患者さんと信頼関係を築ける、よき医療人になりたいと思いました。

施設実習

コミュニケーションの 重要性を学んだ施設実習

薬学部
山口美咲



救急法実習は、意識はあるが怪我をしているなどの理由から倒れている人を救助するための実習です。山梨赤十字病院の方のご指導のもと、意識のある傷病者を発見した時の救助者がすべき一連の流れ、怪我をした部位ごとの三角巾の巻き方や使い方、傷病者を搬送する方法を教えてくださいました。大学入学後、心肺蘇生法などで意識のない方の救助方法は複数回学んだことがありましたが、意識がある傷病者の救助方法を実践的に学ぶのは初めてでした。この実習で、適切な声かけをすること、緊急時に医療を学ぶ者としてどのような行動をすれば良いのかを学ぶことができました。

救急法実習

三角巾の凄さを知った 救急法実習



歯学部
白石彩奈

心肺蘇生法実習

人命救助の 技術と勇気

保健医療学部
リハビリテーション学科
理学療法学専攻
齊藤里佳



心肺蘇生法実習では、大きく分けて救命処置と気道異物の除去の二つを学び、訓練用の人形を使って実践しました。救命処置では、胸骨圧迫と人工呼吸による心肺蘇生、AEDの使用について学び、訓練用の人形が記録し印刷したグラフデータを見ながら何回も繰り返し練習することで、より正確に心肺蘇生ができるようになりました。

これらのことを経験して感じたのは、人命救助の難しさです。実際に救助が必要な場面に直面したとき、救命に勇気を出して参加し、正確な技術を発揮できるよう、今回学んだことを忘れずに平日の意識から変えていく必要があると感じました。

私は今回の学部別実習で昭和大学藤が丘病院に行きました。実習では病棟看護師に同行し、どのようなことに気をつけ看護援助が行われているかを見学しました。その中で私は、看護援助が常に安全・安楽を考えて行われていることを実感し、中でも転倒リスクのある患者さんにセンサーを設置して安全を確保したり、ベッドの位置を移動させて患者さんの安全を確保したりしていることが印象に残りました。初めての学部実習は、患者さんのニーズや看護援助、看護師同士の連携などを知らずとも良い機会になりました。今回の学びを活かし、これからも勉学に励んでいきたいです。

学部別実習

初めての病院実習



保健医療学部
看護学科
牛尼萌那

令和5年度

科学研究費助成事業採択課題一覧

令和5年度の科学研究費助成事業の交付は全体で325件が採択され、総計で3億7,763万円が交付される。

各所属の採択件数・交付額は以下の通り。

- 医学部：136件 1億7,025万円
- 歯学部：89件 9,490万円
- 薬学部：40件 4,694万円
- 保健医療学部：32件 2,740万円
- 富士吉田教育部：4件 250万円
- 研究所等：24件 3,563万円

今号では、保健医療学部と富士吉田教育部、研究所・法人の一覧、そして6/1以降採択分を掲載する。 ※所属・役職は令和5年5月交付時点

保健医療学部

研究種目	所属/部門	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
看護学		教授	三村 洋美	100,000	高齢者のEOLケア基盤に関する研究-プロセスマップ策定と看護教育プログラム構築-
		教授	田中 晶子	2,000,000	急性期意識障害患者の意識回復に効果のある快適刺激基準の開発
		教授	渡邊 知映	1,800,000	若年女性がん患者の性・生殖に関するICTを活用した支援プログラムの開発
		教授	富田 真佐子	800,000	オンライン診療と看護を組み合わせた炎症性腸疾患患者に対するセルフケア支援の構築
		教授(員外)	鈴木 浩子	1,700,000	デジタルコンテンツを用いた育児中の母親のメンタルヘルスケア支援プログラムの開発
		准教授	川村 晴美	900,000	急性期病院で認知症高齢者をケアする看護師への認知症ケアサポートプログラムの開発
		准教授	村田 加奈子	400,000	退院前から退院直後の移行期を支える効果的な訪問看護モデルの構築
		准教授	大木 友美	500,000	遠隔集中治療における患者回復アウトカムへつなげる看護ケアモデルの構築
		准教授	和智 志げみ	100,000	熟達助産師のケア技術の伝承に向けた研究-産後2週間健診のケアモデル検討-
		講師	井出 由美	1,100,000	NICUの新人看護師を対象とした教育支援プログラムの普及と実用化研究
基盤研究(C)		講師	柴田 由美	1,100,000	口腔機能障害患者のフレイル、介護予防に関する研究 -新たな早期支援策の開発-
		講師	中村 綾子	100,000	実習指導者講習を修了した看護師を対象とした院内教育プログラムの開発
		講師	中澤 沙織	400,000	新卒看護師の職務定着に向けた職務満足とバーンアウトの因果モデルの開発
		講師	本間 織重	1,100,000	感染症パンデミックに耐えうるがん看護システム構築のための有害事象評価シートの開発
		准教授	上條 史子	3,100,000	片麻痺者の体幹機能評価の策定 -日常生活動作向上に向けて-
リハビリテーション学		准教授	増山 英理子	700,000	脳損傷における視覚と自律神経機能評価による情動反応の可視化
		准教授	池田 崇	700,000	心臓リハ患者に対するβヒドロキシβメチル酪酸カルシウムを併用した運動療法の効果
		講師	大塚 裕之	2,400,000	片麻痺患者の上肢共同運動の解明とニューロリハビリテーションの開発
	講師	来住野 麻美	900,000	バレエにおける下肢関節痛の発症メカニズム解明にむけた関節接触圧モデル作成	
教育学		講師	吉川 輝	600,000	脳損傷後の運動機能の回復を目指す運動療法の作用機序の解明
助産学専攻科		准教授	中山 香映	1,000,000	母子健康手帳アプリ防災メニューを活用した公民連携防災教育プログラムの有効性の検討
看護学		教授	大崎 千恵子	300,000	「報告・相談」技術向上を目指した、看護学生向けSBARツールプログラムの開発
		講師	犬塚 真由子	400,000	対側リスク低減乳房切除術を受けた遺伝性乳癌卵巣癌症候群女性のQOL調査
		講師	市村 菜奈	100,000	音楽に合わせた手指運動が脳血流や入院患者の認知機能へ与える影響の解明
		講師	平塚 克洋	400,000	小児医療に留まる思春期・青年期慢性疾患患者の成人移行のための看護ケア指針の考案
		講師	鈴木 洋子	800,000	COVID-19後のリアリティショック-卒後2日目までの看護師に着目-
若手研究		准教授	的場 匡亮	200,000	医療機関と患者との価値共創に関する研究
	リハビリテーション学	准教授	田代 尚範	2,200,000	人工呼吸器離脱の意思決定における横隔膜機能評価の臨床的有効性に関する研究

研究種目	所属/部門	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
若手研究	リハビリテーション学	准教授	渡部 喬之	100,000	トイレ動作自立判定のためのdual task評価システムの開発
		講師	根本 慎司	700,000	心不全患者の下肢筋酸素利用率の改善に最適な骨格筋トレーニング方法の確立
		講師	青木 啓一郎	500,000	ミラーセラピーと電気刺激の併用療法による脳卒中上肢リハの新規ストラテジーの開発
		講師	鈴木 貞興	200,000	骨盤並進運動を指標とした体幹機能評価法の構築

富士吉田教育部

研究種目	所属/部門	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基盤研究(C)	富士吉田教育部	教授	高橋 留美	700,000	トピックモデルを適用した歯学系専門語彙集の作成
		教授(員外)	宮本 洋一	1,000,000	歯周病の病態形成における活性イオウ分子種の機能解明
		教授(員外)	山本 雅人	300,000	赤外光による緑膿菌とアシネトバクター・パウマニの周辺空気からの非接触検出
若手研究	富士吉田教育部	講師	大澤 恵里	500,000	残響下の時間長知覚に対する残響曝露の効果

研究所・法人

研究種目	所属/部門	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基盤研究(B)	臨床薬理研究所/臨床腫瘍診断学	教授	和田 聡	4,100,000	高密度レクチンアレイを用いた腫瘍抗原における糖鎖構造の解明
		教授(員外)	鶴谷 純司	1,200,000	難治性腫瘍形成における葉酸受容体発現の機序と役割解明
		准教授	伊藤 寛晃	1,900,000	ラマン分光法を応用した食道・胃・大腸がん包括的診療システムの確立
		准教授	今村 知世	2,800,000	腫瘍に発現する抗原/受容体を標的とする抗体製剤のPK規定因子の探索
		助教	長谷部 友紀	1,200,000	非小細胞性肺癌における末梢血循環癌細胞(CTC)新規同定法の開発
		教授	吉村 清	1,000,000	免疫老化スコア化システムを用いた食道癌薬物療法の有効性予測
		教授(員外)	倉増 敦朗	1,300,000	免疫チェックポイント阻害薬の抗腫瘍作用に対する抗ヒスタミン薬の増強効果
		講師	家口 勝昭	800,000	がん微小環境におけるEphA2/ephrin-A1を介した免疫回避の分子機構
		准教授	太田 晴久	1,400,000	ADHDに伴う感覚過敏の脳神経基盤の解明と治療可能性の検討
		講師	柿嶋 聡	1,400,000	送粉器誘引メカニズムの進化の視点から探るマムシガサ節の種の実体解明
基盤研究(C)	臨床薬理研究所/臨床免疫腫瘍学	教授	マイヤース マイケル	800,000	Study abroad and improved physician empathy in medical students
		教授(員外)	井上 永介	700,000	腸内細菌叢による免疫チェックポイント阻害薬の効果予測モデルの開発とパッケージ構築
		講師	源川 奈央子	1,100,000	ケニア共和国における生活習慣改善支援プログラムの構築
		特任教授	荒木 和之	2,200,000	敵対的生成ネットワークと説明可能AIの組合せによるパノラマX線画像の自動診断の検討
		特任教授	工藤 進英	600,000	昭和大学横浜市北部病院/消化器センター
		講師	沖村 宰	2,500,000	精神障害患者の会話コーパス構築と発話特徴に基づいた診断支援AIの開発
		教授	和田 聡	1,300,000	免疫チェックポイント分子の糖鎖構造の解析及び個別化治療への挑戦
		講師	酒井 瞳	1,200,000	HER2陰性乳癌脳転移・髄膜播種の薬物療法開発にむけた髄液ctDNA検査の研究
		講師	山本 明和	3,000,000	3次元OCT画像を基軸としたAIによる急性心筋梗塞病因診断の確立
		兼任講師	木村 篤史	1,500,000	チアミンによるアルツハイマー病の予防・進行抑制機序の多面的解明：基礎から臨床へ
若手研究	臨床薬理研究所/臨床腫瘍診断学	講師	清水 峻志	1,637,327	遺伝性肺動脈性肺高血圧症の新規治療薬の開発
		兼任講師	山田 貴志	1,100,000	自閉スペクトラム症の学習過程の解明：視知覚学習による検討
		兼任講師	青木 悠太	900,000	発達障害の超診断的・生物学的サブタイピング
		兼任講師	山田 貴志	※ 0	自閉スペクトラム症の睡眠中における学習過程の解明
国際共同研究 加速基金 (国際共同研究強化(A))	発達障害医療研究所	兼任講師	山田 貴志	※ 0	自閉スペクトラム症の睡眠中における学習過程の解明

※：研究開始年度に全額入金有り

6月以降採択者

研究種目	学部／所属／部門	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
研究活動 スタート支援	■ 医学部／産婦人科学	助教	朝見 友香	1,100,000	ゲノム異常を用いた子宮体癌のリンパ節転移を術前に予測する機械学習モデルの構築
		助教(歯科)	河合 良太	1,100,000	超硫黄分子による変形性膝関節症治療候補薬の開発基盤の構築
		助教(歯科)	森川 金汰	1,100,000	新たな3次元6自由度下顎運動測定方法の開発
	■ 歯学部／歯科矯正学	助教(歯科)	小山 菜	1,100,000	除脳灌流標本を用いた嚙下中枢パターン発生器の光学的解析
		助教(歯科)	高橋 侑嗣	1,100,000	歯周組織再生を目的としたヒトiPS細胞由来歯根膜細胞の誘導法の確立
	■ 歯学部／全身管理歯科学／障害者歯科学部門	助教(歯科)	佐藤 ゆり絵	1,100,000	食事中の脂質とコレステロールが硬組織に与える影響の解明
	■ 薬学部／基礎医療薬学／生理学部門	助教	中野 僚太	900,000	中枢神経系用薬の精子DNAメチル化変化を介した次世代の発達への影響の解明
	■ 研究所・法人／発達障害医療研究所	助教	直江 大河	1,100,000	成人自閉スペクトラム症者の語用論的特徴の多様性とその神経基盤の解明

総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試・卒業生推薦入試・編入学試験結果

令和6年度総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試、卒業生推薦入試、編入学試験を旗の台キャンパスで実施し、合格者が決定した。詳細は表のとおり。

総合型選抜入試結果

学部	試験日	募集人員	志願者数	合格者数	
歯学部	1次：書類審査 2次：10月28日	10	37	10	
	薬学部	20	46	20	
保健医療学部	看護学科	7	56	7	
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	1次：10月8日 2次：10月28日	8	19	8
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	8	6	5	

2024年度医学部附属看護専門学校入学試験（推薦・学士選抜）結果

医学部附属看護専門学校2024年度推薦（公募）入学試験、推薦（指定校）入学試験、学士・短大学士選抜入学試験を11月3日、同校で実施した。当日は学力試験と面接試験を行い、11月6日に合格者計88名が発表された。一般選抜入学試験は1月8日に実施、10日に合格発表を行った。詳細は次回2 - 3月号に掲載。

	試験区分	試験日	募集人員	志願者数	合格者数
医学部附属 看護専門学校	推薦	11月3日	約70名	85名	73名
	学士		約15名	20名	15名

学校推薦型選抜入試・卒業生推薦入試・編入学試験結果

学部	試験区分	試験日	募集人員	志願者数	合格者数
医学部	学校推薦型	11月25日	2 ^(※1)	1	1
	卒業生推薦		7	56	7
歯学部	学校推薦型	27 ^(※2)	28	25	
	卒業生推薦	7	13	8	
薬学部	編入学	若干名	14	5	
	学校推薦型	46 ^(※2)	51	31	
保健医療学部	卒業生推薦	11月25日	10	10	4
	学校推薦型	37 ^(※3)	53	36	
看護学科	卒業生推薦	3	4	3	
	編入学	10	14	9	
リハビリテーション学科 理学療法学専攻	学校推薦型	9 ^(※3)	13	9	
	卒業生推薦	1	0	-	
リハビリテーション学科 作業療法学専攻	学校推薦型	6 ^(※3)	2	2	
	卒業生推薦	1	0	-	

※1 特別協定校のみ ※2 特別協定校・指定校を含む ※3 特別協定校を含む

大学院保健医療学研究科 令和6年度春季入学試験結果

研究科	試験区分	日程	募集人員	志願者数	合格者数	
保健医療学 研究科	博士前期課程	春季	11月11日	20名	18名	15名
	博士後期課程	春季		6名	5名	4名
			合計	26名	23名	19名

令和5年度 永年勤続者表彰

令和5年度の表彰者は勤続35年37名、勤続25年58名、勤続15年123名。

本学で永きにわたり職務に精励し、本学の発展に貢献した職員を表彰する永年勤続者表彰により218名の職員が表彰された。

【令和5年度 永年勤続表彰者】

35年表彰者(37名)		※敬称略
木内 祐二	医学部 薬理学講座医科薬理学部門	
永田 和弘	薬学部 基礎薬学講座医薬化学部門	
田中 克巳	薬学部 病院薬剤学講座	
福地本 晴美	保健医療学部 看護学科	
石田 秀樹	保健医療学部 看護学科	
崔 昌五	保健医療学部 保健医療学教育学	
千葉 雅浩	富士吉田教育部 学生寮	
奥脇 義敦	富士吉田教育部 栄養科	
大矢 敦	旗の台校舎 人事部	
松倉 健友	旗の台校舎 人事部付(出向)	
大林 真由美	旗の台校舎 財務部病院経理課	
大森 章弘	旗の台校舎 施設部	
八木澤 七重	旗の台校舎 学士会	
井上 信之	旗の台校舎 学事部入学支援課	
中村 武彦	旗の台校舎 学事部看護専門学校事務課	
羽田 貴子	旗の台校舎 図書館	
中島 理香	医学部附属看護専門学校 教員室	
川野 留美子	昭和大病院 看護部	
馬西 嘉美	昭和大病院 看護部	
中村 揚介	昭和大病院 臨床病理検査室臨床検査部門輸血検査室	
伊藤 克佳	昭和大病院 臨床工学室	
東 香里	昭和大病院 管理課	
内田 強	昭和大病院附属東病院 医療技術室	
佐々木 春明	昭和大藤が丘病院 外科系診療センター泌尿器科	
城所 扶美子	昭和大藤が丘病院 看護部	
藤田 みどり	昭和大藤が丘病院 看護部	
中村 久子	昭和大藤が丘リハビリテーション病院 臨床病理検査室臨床検査部門臨床検査室	
小川 秀樹	昭和大横浜市北部病院 事務部	
脇坂 美穂	昭和大横浜市北部病院 医事外来課	
小笠原 京子	昭和大横浜市北部病院 看護部	
辻 聡 泉	昭和大横浜市北部病院 臨床病理検査室臨床検査部門生理検査室	
堤 博志	昭和大横浜市北部病院 臨床工学室	
日比野 文代	昭和大江東豊洲病院 看護部	
伊宝田 さとみ	昭和大附属烏山病院 看護部	
真島 康子	昭和大附属烏山病院 看護部	
野澤 ゆり子	昭和大歯科病院 美容歯科	
河合 優子	昭和大歯科病院 看護部	

25年表彰者(58名)		※敬称略
宇高 結子	医学部 薬理学講座医科薬理学部門	
八木原 有紀	医学部 衛生学公衆衛生学講座	
野中 直子	歯学部 口腔解剖学講座	
高見 正道	歯学部 歯科薬理学講座	
齊藤 清美	薬学部 基礎医療薬学講座薬剤学部門	
阿部 誠治	薬学部 病院薬剤学講座	
田中 広紀	薬学部 病院薬剤学講座	
藤原 久登	薬学部 病院薬剤学講座	
近藤 雅人	富士吉田教育部	
大串 太一	旗の台校舎 動物実験施設	
岡崎 直人	旗の台校舎 総務部総合情報管理課	

石塚 美雪	長津田校舎 学事部長津田校舎事務課
笠間 恵	昭和大病院 看護部
新村 裕美子	昭和大病院 看護部
園生 容子	昭和大病院 看護部
竹田 由利子	昭和大病院 看護部
諸戸 安恵	昭和大病院 看護部
比嘉 直子	昭和大病院 看護部
佐香 ゆきえ	昭和大病院 看護部
大内 久美子	昭和大病院 看護部
與那覇 香苗	昭和大病院 看護部
狩野 充治	昭和大病院 臨床病理検査室臨床検査部門病理検査室
平田 葉子	昭和大病院附属東病院 看護部
橋詰 美咲	昭和大病院附属東病院 看護部
米田 清美	昭和大病院附属東病院 看護部
小野寺 美弥	昭和大病院附属東病院 看護部
田島 由起子	昭和大病院附属東病院 医療技術室
八木 治身	昭和大病院附属東病院 医療技術室
桑澤 実希	昭和大藤が丘病院 病院歯科
村木 美紀	昭和大藤が丘病院 看護部
鈴木 洋子	昭和大藤が丘病院 看護部
寺澤 知子	昭和大藤が丘病院 看護部

本庄 茂登子	昭和大藤が丘病院 臨床病理検査室臨床検査部門生理検査室
大下 里沙	昭和大藤が丘病院 臨床病理検査室臨床検査部門生理検査室
川手 信行	昭和大藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーション科
大高 浩美	昭和大藤が丘リハビリテーション病院 看護部
高橋 智子	昭和大藤が丘リハビリテーション病院 看護部
小松 千絵	昭和大横浜市北部病院 薬剤部
小泉 史子	昭和大横浜市北部病院 薬剤部
堀内 淳子	昭和大横浜市北部病院 看護部
青木 宏美	昭和大横浜市北部病院 臨床病理検査室臨床検査部門生理検査室
荒嶋 知世子	昭和大横浜市北部病院 臨床病理検査室臨床検査部門生理検査室

佐々木 かよ子	昭和大横浜市北部病院 臨床病理検査室臨床検査部門輸血検査室
出町 昌子	昭和大横浜市北部病院 医療技術室
鎌田 栄子	昭和大横浜市北部病院 医療技術室
伊藤 敬義	昭和大江東豊洲病院 消化器センター消化器内科
丹野 郁	昭和大江東豊洲病院 循環器センター循環器内科
大槻 克文	昭和大江東豊洲病院 産産期センター産科
長谷川 美奈子	昭和大江東豊洲病院 看護部
村山 美和	昭和大江東豊洲病院 看護部
平塚 京子	昭和大江東豊洲病院 看護部
稲場 志帆	昭和大江東豊洲病院 看護部
屋代 薫	昭和大江東豊洲病院 臨床病理検査室臨床検査部門生理検査室
榎本 享子	昭和大附属烏山病院 看護部
高橋 麗子	昭和大附属烏山病院 看護部
木庭 新治	昭和大歯科病院内科クリニック 内科
滝口 尚	昭和大歯科病院 歯周病科
飯田 祐子	昭和大歯科病院 事務課

学内会議報告



就任のお知らせ (10月10日 理事会承認)

医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座担当 教授(員外)
[勤務地：昭和大学藤が丘病院外科系診療センター(耳鼻咽喉科)]



小林 育

医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座担当 准教授
[勤務地：昭和大学藤が丘病院外科系診療センター(耳鼻咽喉科)]
任命日：令和5年10月10日

昭和大学歯科病院口腔腫瘍外科 診療科長



嶋根 俊和

医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座担当 教授
任命日：令和5年10月10日

就任のお知らせ (11月14日 理事会承認)

特任教授



宮崎 章

医学部生化学講座担当 教授
[勤務地：昭和大学旗の台校舎]
理由：修学支援のため
任期：令和6年4月1日～令和7年3月31日

特任教授



伊藤 純治

保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻担当 教授
[勤務地：昭和大学長津田校舎]
理由：解剖学教育のため
任期：令和6年4月1日～令和7年3月31日

特任教授



田中 周一

富士吉田教育部担当 教授
[勤務地：昭和大学富士吉田校舎]
理由：日本語教育(国語)のため
任期：令和6年4月1日～令和7年3月31日

特任教授



相良 博典

医学部内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門担当 教授
[勤務地：昭和大学病院呼吸器・アレルギー内科]
理由：昭和大学病院長のため
任期：令和6年4月1日～令和7年3月31日

特任教授



落合 正彦

医学部内科学講座循環器内科学部門担当 教授
[勤務地：昭和大学横浜市北部病院循環器センター循環器内科]
理由：横浜市北部病院循環器内科診療のため
任期：令和6年4月1日～令和7年3月31日

特任教授



坂下 暁子

医学部内科学講座血液内科学部門担当 教授
[勤務地：昭和大学横浜市北部病院内科系診療センター内科]
理由：横浜市北部病院内科診療のため
任期：令和6年4月1日～令和7年3月31日

特任教授



岩波 明

医学部精神医学講座担当 教授
[勤務地：昭和大学附属鳥山病院精神神経科]
理由：保健医療学部精神医学教育のため
任期：令和6年4月1日～令和7年3月31日

医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座担当 教授(員外)
[勤務地：昭和大学江東豊洲病院外科系診療センター(耳鼻咽喉科)]



木村 百合香

東京都立荏原病院耳鼻咽喉科 医長
昭和大学江東豊洲病院外科系診療センター耳鼻咽喉科診療科長
任命日：割愛日

特任教授 継続 任期：令和6年4月1日～令和7年3月31日

小出 良平	工藤 進英	小林 真一	高橋 寛	小林 洋一
小口 江美子	加賀美 芳和	大久保 文雄	宮崎 隆	佐々木 忠徳
瀧本 雅文	米良 仁志	門倉 光隆	寺田 友昭	橋 玄秀
平井 康昭	中村 清吾	福成 信博	嘉村 康邦	下司 映一
桑迫 勇登	小林 一女	鹿間 裕介	橋本 東児	南淵 明宏
井上 晴洋	横 宏太郎	荒木 和之		(以上、28名)

理事会関係

◆令和5年度活性化推進委員会実行計画について

本学は、より盤石な体制を築くことを目的に、理事会のもとに法人・大学活性化推進委員会及び病院活性化推進委員会を平成19年から設置している。各委員会ではプロジェクトを立ち上げ、活発な議論を経て改革に向けた答申を作成している。今年度は、各プロジェクトからの答申に基づき、法人・大学活性化推進委員会、病院活性化推進委員会が策定した6つの実行計画が承認された。

【法人・大学活性化推進プロジェクト】

- ①看護専門学校臨床教員制度検討プロジェクト
- ②医学部1年次カリキュラム検討プロジェクト
- ③修学支援制度の改善検討プロジェクト

【病院活性化推進プロジェクト】

- ①大学病院・東病院における二人主治医制の推進検討プロジェクト
- ②看護師の病院間ローテーション検討プロジェクト
- ③大学病院における土曜日診療推進検討プロジェクト

◆昭和大学医学英語教育センター設置

【設置目的】昭和大学各学部等の医学英語教育の充実および向上を図るため。

【設置日】 令和6年4月1日

◆昭和大学臨床疫学研究所設置

【設置目的】臨床疫学に関わる研究の振興と人材育成を通じ、臨床医学における諸問題の解決に貢献し、医学の発展および国民の健康増進に寄与するため。

【設置日】 令和6年4月1日

【設置場所】 1号館4階

◆歯学部歯科保存学講座美容歯科学部門の名称変更

変更前	変更後
歯科保存学講座 美容歯科学部門	歯科保存学講座 保存修復学部門
Department of Conservative Dentistry, Division of Aesthetic Dentistry and Clinical Cariology	Department of Conservative Dentistry, Division of Operative dentistry

【設置日】 令和6年4月1日

◆富士吉田寮有効活用について

富士吉田キャンパスの各寮を宿泊施設として活用することが承認された。

【利用施設】

- ・昭和大学富士吉田ゲストハウス(旧赤松寮)
- ・赤松寮、白樺寮、すみれ寮、百合寮

※ゲストハウス以外の各寮は、学生の不在時のみ宿泊施設とする。

【利用対象者】 職員、学生、一般(本学関係者、父母他)

【運用開始日】 令和6年4月1日

【運用所管部署】 富士吉田校舎事務課

◆令和5年度学長業務執行状況監査報告

学長選考会議による監査および監事による監査の結果について報告がなされ、いずれの監査においても、当該任期に期待する業務基準を上回るとの評価に至った。

◆新型コロナウイルス感染症に関する対応について

久光学長から、医学部の診療参加型臨床実習について、新型コロナウイルスに感染した患者さんの病室に立ち入り、診療に関わることができることとし、薬学部・保健医療学部および看護専門学校病院実習についても検討中である旨の報告がなされた。


学務関係

◆令和6年度施行 国家試験日程

	試験日	合格発表日
医師	令和6年2月3日、4日	令和6年3月15日
歯科医師	令和6年1月27日、28日	令和6年3月15日
薬剤師	令和6年2月17日、18日	令和6年3月19日
看護師	令和6年2月11日	令和6年3月22日
理学療法士	令和6年2月18日、19日	令和6年3月21日
作業療法士	令和6年2月18日、19日	令和6年3月2日
助産師	令和6年2月8日	令和6年3月22日
保健師	令和6年2月9日	令和6年3月22日

◆学生意見箱について

学生サービス向上のため、学生意見箱を設置し、11月から運用を開始した。




**SUN
投書箱**

ご感想・ご意見・
ご提供のお願い

「SHOWA UNIVERSITY NEWS」=「SUN」では引き続き学内の情報についてご紹介をしていきます。本誌のご感想や、今後開催されるイベント・取り組みなどの情報について、ご意見・ご提供をお願いしております。ぜひお気軽にお寄せください。二次元コードからWEBフォームよりお聞かせください。今後もご購入の皆様により良い情報を提供していけるよう、努めてまいります。

ご回答いただいた内容につきましては、本誌制作の資料としてのみ利用させていただきます。



i Information

詳細・更新情報は各部署へお問い合わせください。

リカレントカレッジ事務室

令和6年度 昭和大学リカレントカレッジ 春期プログラム受講生募集中

令和6年度春期プログラム受講生を募集しています。今回は新規開講講座も増え、より一層多彩なプログラムを取り揃えています。今回は4月に開講する講座をご紹介します。資料請求・講座申込はリカレントカレッジホームページをご覧ください。

【4月開講】申込締切：2024年3月20日(水)

プログラム名	講師(敬称略)
人生100年時代を乗り切る「考える食事」	山岸 昌一
医療と死生観～人生の意味・役割を問う～	高宮 有介
刻書を知る	新井 平八郎
映画に見る師弟関係	内田 樹
ハリウッド式！大人から始める初めてのボイストレーニング～楽しく歌って、心も体も元気になろう！～	金丸 明日香
アンチエイジングのための山歩(さんぽ)	原口 省吾
歴史に隠れた病気を探る	小川 良雄
医師国家試験問題から見た我が国の医療	小風 暁
宇宙教育のすすめ～身近にある宇宙・天文技術の共有～	和田 直樹
健康を維持するための筋トレ・栄養学～人生100年を有意義に過ごすための処方箋～	蜂須 貢
命の現場から届ける「悔いない人生」を送る7つの秘訣	高宮 新之介
人生がハッピーになる 大人のためのオシッコ学	小川 良雄
ご夫婦でワインの話をしませんか？～60歳からのワイン初級講座～	鈴木 満
魅力的なプレゼンテーションのためのハリウッド式ボイストレーニング！～声帯の筋トレで、説得力のある声を手に入れよう！～	金丸 明日香
人工呼吸器管理のはじめの一步！	大滝 周
薬剤師が伝える 市販薬の選び方・使い方～からだの仕組みと薬の効果を知る(解熱鎮痛薬)～	赤川 圭子

※定員に達し次第、受付を終了いたします。

リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。

お問い合わせ 昭和大学リカレントカレッジ事務室
電話：03-3784-8143



昭和大学学生会

第70回昭和大学学生会総会

12月2日、旗の台キャンパス4号館にて第70回昭和大学学生会総会を開催しました。

まず、一般演題・学位論文内容発表の50演題を6会場にて行いました。今回は多くの大学院生に囲まれる中、医学部5年生・6年生による演題発表もありました。

続いて500号教室にて昭和大学学術奨励賞の授与が行われました。これは、2023年に学会誌に掲載された原著論文で、投稿時に筆頭著者40歳未満の中から7論文の演者が選ばれ、表彰されました。

また、「教育講演」は、医学部の木内祐二教授に「薬理科学研究センターの新たな取り組みについて～昭和大学の特色を生かした研究センターのモデルを目指して～」、歯学部の馬場一美教授に「睡眠時ブラキシズム研究の現状と未来」、保健医療学部の渡邊知映教授に「がんゲノム医療における保健医療学分野の担う役割」をご講演いただきました。

会場とライブ配信を併用したハイブリット開催も3年目となり、500号教室には103名、ライブ配信にて46名と多くの方々にご参加いただきました。

2023年度 昭和大学学生会学術奨励賞 受賞者(敬称略)
Hirschsprung 病腸管の神経節細胞の局在についての免疫組織化学的検討 福永 奈津 昭和大学医学部臨床病理診断学講座
A comparison of tumor size with ultrasonography and magnetic resonance imaging and histopathology based on ductal carcinoma <i>in situ</i> subtype 松谷 彬子 昭和大学医学部外科学講座乳腺外科学部門
Methemoglobin concentration for the distinction between antemortem thrombus and postmortem coagulation 橋本 茉莉 昭和大学医学部法医学講座
Predicting the course of hematopoietic neoplasm through oral bacterial examination 白倉 香子 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座地域連携歯科学部門
The PD-L1/22C3 assay for primary lung cancer is feasible for daily clinical practice irrespective of the diagnostic procedure 菅沼 宏充 昭和大学医学部内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門
身体失認を呈した脳損傷患者における閉眼時の姿勢制御の特徴 阿部 真理奈 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーションセンター
The effectiveness of bile cytology during percutaneous transhepatic gallbladder drainage for acute cholecystitis in diagnosing incidental gallbladder cancer 宇佐美 智乃 昭和大学医学部内科学講座消化器内科学部門

※所属・氏名は論文掲載時のもの。

1 昭和大学学術奨励賞の授与者 2 教育講演1 木内祐二教授 3 教育講演2 馬場一美教授
4 教育講演3 渡邊知映教授



是非とも、総会で昭和大学学術奨励賞を目指していただく、若手研究者のご投稿をお待ちしております。「昭和学生会雑誌」「THE SHOWA UNIVERSITY JOURNAL OF MEDICAL SCIENCES」は、日本の学術ジャーナルを発信するJ-STAGEにて公開しています。ご投稿の際は、学生会WEBサイト(学会誌)コンテンツをご覧ください。

お問い合わせ 昭和大学学生会
電話：03-3784-8074
メール：gakushikai@ofc.showa-u.ac.jp



上條記念ミュージアム

「昭和の医療機器」展 開催中！

上條記念ミュージアムでは、第5回企画展「昭和の医療機器」を開催しています。昭和大学の創立以来、教育や臨床の現場で使用された医療機器の展示を通じて窺える本学の歴史を、当時の写真とともに紹介しています。

【開館】火曜日・金曜日
13:00～15:00(予約制)

皆さまのご来館を心よりお待ちしております。

お問い合わせ 昭和大学上條記念ミュージアム
電話：03-3784-8031
メール：museum@ofc.showa-u.ac.jp



アスリート支援事務室

第12回女子日本アイスホッケーリーグ (2023-24 SMILE JAPAN LEAGUE) 2次リーグ報告 女子アイスホッケークラブ「ブルーウィンズ」

2023年11月23日(木祝)～25日(土) 北海道苫小牧市 (nepiaアイスアリーナ・ダイナックス沼ノ端アイスアリーナ)にて第12回女子日本アイスホッケーリーグ(2023-24 SMILE JAPAN LEAGUE)の第2次リーグが開催され、試合結果は下記の通りとなります。

【第12回女子日本アイスホッケーリーグ 2023-24 SMILE JAPAN LEAGUE 第2次リーグ】

10月23日(木祝)
昭和大学ブルーウィンズ 5 vs 2 中学選抜

10月24日(金)
昭和大学ブルーウィンズ 6 vs 0 U18全国選抜

10月25日(土)
昭和大学ブルーウィンズ 3 vs 2 札幌インフィニティーズ

なお、今後の大会スケジュール(予定)は下記の通りとなります。
【ファイナル】2024年2月23日(金祝)～25日(日) 帯広市
【第43回全日本女子アイスホッケー選手権大会Bグループ】
2024年3月7日(水)～10日(日) 帯広市

チームの最新情報は、公式ホームページ・facebook・Instagramにて随時発信しております！
引き続き、熱い応援を宜しくお願いいたします!!



【選手募集中!!】
BLUE WINDSでは、選手を募集しています。メールにてお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ メール：blue-winds@ofc.showa-u.ac.jp



総務部

昭和大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

【創立100周年に向けてへの寄付】

父母／中越 匡史 様、長谷川 真司 様
 同窓／高橋 兼一郎 様（歯学部・20回生）、斎藤 克之 様（医学部・34回生）、稲次 征人 様（医学部・38回生）、菅野 寛 様（医学部・41回生）、橋本 博介 様（医学部・41回生）、菊池 隆一 様（医学部・42回生）、柴原 義博 様（医学部・44回生）、水川 啓子 様（医学部・46回生）、米山 啓一郎 様（医学部・47回生）、瀬戸 宣文 様（薬学部・2回生）
 職員（50音順）／浅川 悦久 様、飯田 誠 様、岩佐 文則 様、江波戸 美緒 様、大矢 敦 様、大山 圭太 様、小川 良雄 様、小口 勝司 様、笠井 龍 様、北見 明彦 様、倉田 なおみ 様、三邊 武彦 様、地頭所 孝志 様、滝口 尚 様、田口 美保 様、田邊 聡 様、辻まゆみ 様、土塚 依里 様、土塚 直哉 様、中谷 一泰 様、成田 紘子 様、西中 直也 様、西村 晶子 様、野部 浩司 様、馬場 一美 様、肥田 典子 様、藤木 誠一 様、穂坂 路男 様、松田 幸子 様、光本 英雄 様、山口 淳 様、山口 義隆 様、山村 勇一 様、龍 家主 様
 一般／野瀬 清 様、株式会社コスモス 様

【武重優秀クラブ賞基金への寄付】

同窓／菅野 寛 様（医学部・41回生）

【教育研究協力資金への寄付】

父母／陳 鍾慧喜 様

【薬学部への寄付】

父母／青木 健治 様、岡野 彰文 様、佐々木 周興 様 千鶴 様、
 医）大誠会 若松記念病院 様

【昭和大学横浜市北部病院への寄付】

一般／田中 隆志 様、町田 憲昭 様

【学生等の留学・国際交流への寄付】

同窓／諸岡 学 様（医学部・61回生）

【各クラブ・学生会への寄付】

同窓／井関 雅一 様（医学部・56回生）、医療法人高仁会 理事
 長 高橋 太郎 様（医学部・65回生）、吉見 裕美子 様（医学部・
 52回生）

職員／龍 家主 様

【大学主催行事への寄付】

同窓／高橋 兼一郎 様（歯学部・20回生）

【その他の寄付】

同窓／昭和大学同窓会 様

※収納期間：10月1日～11月30日

今号の表紙写真

9月号にて公募した新年号の表紙は、応募の中から薬学部4年の稲村武恵さんの写真を選定しました。静岡県富士宮市から臨む夜明けの富士山です。自然にあふれる色彩表現は実に豊かですね。11月15日に挙行了した創立95周年記念式典・記念会でも上條ホルの緞帳「黎明」の披露から幕開けしました。長い歴史が織り込まれた姿から多様な色彩があふれ出す富士山の姿のように、100周年に向け躍進を続けていきます。



SHOWA
UNIVERSITY
NEWS vol. 8

Dec. 2023 - Jan. 2024
 昭和大学新聞 通巻第617号
 令和6年1月31日発行
 年6回発行



昭和大学
SHOWA University

学校法人 昭和大学 (03) 3784-8000
 〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8

【本誌について】

発行人 小口 勝司

編集 総務課 大学広報係
 (03) 3784-8059
 press@ofc.showa-u.ac.jp

ご意見やご感想、各種情報をお待ちしています。

制作・印刷 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社

記送停止
住所変更
の連絡は、
こちらにお願
いします。

【各種募金・寄付について】

企画課 (03) 3784-8387

【学事について】

学務課 (03) 3784-8022 (旗の台)
 (0555) 22-4403 (富士吉田)
 (045) 985-6503 (横浜)

大学院課 (03) 3784-8793

入学支援課 (03) 3784-8026

! 個人情報の取扱いにご注意ください

昭和大学新聞には、学生・職員および学外関係者の氏名や所属等を掲載している場合があります。掲載に際しては、学校法人昭和大学が個人情報を広報活動に利用することについて説明し、同意していただいております。原則として、その他の目的に個人情報を利用することはできませんので、取扱いにはご注意ください。